

高梁地域における
新型インフルエンザ流行状況について
12月末までの経過

平成22年1月21日

高梁医師会研修会にて

岡山県備北保健所

所長 阿部ゆり子

I. 定点医療機関からの報告件数について

図1 の折れ線グラフは岡山県の過去10年間の患者報告数の推移
棒グラフはH21.7/27以降の全国の定点報告数の推移

図1 インフルエンザ流行の状況

単位: 定点医療機関当たり人
県内インフルエンザ定点数=84医療機関(内科、小児科)

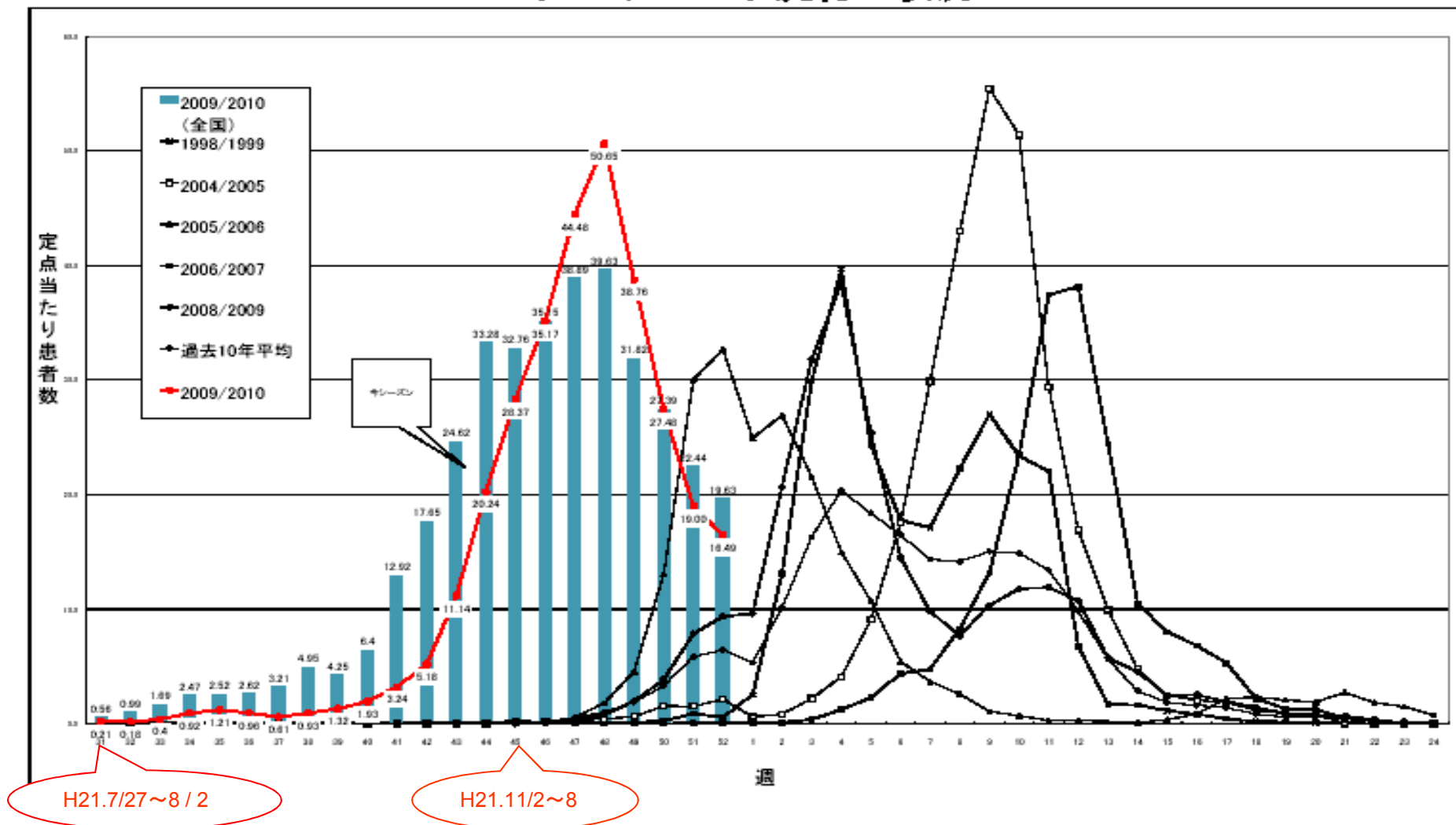
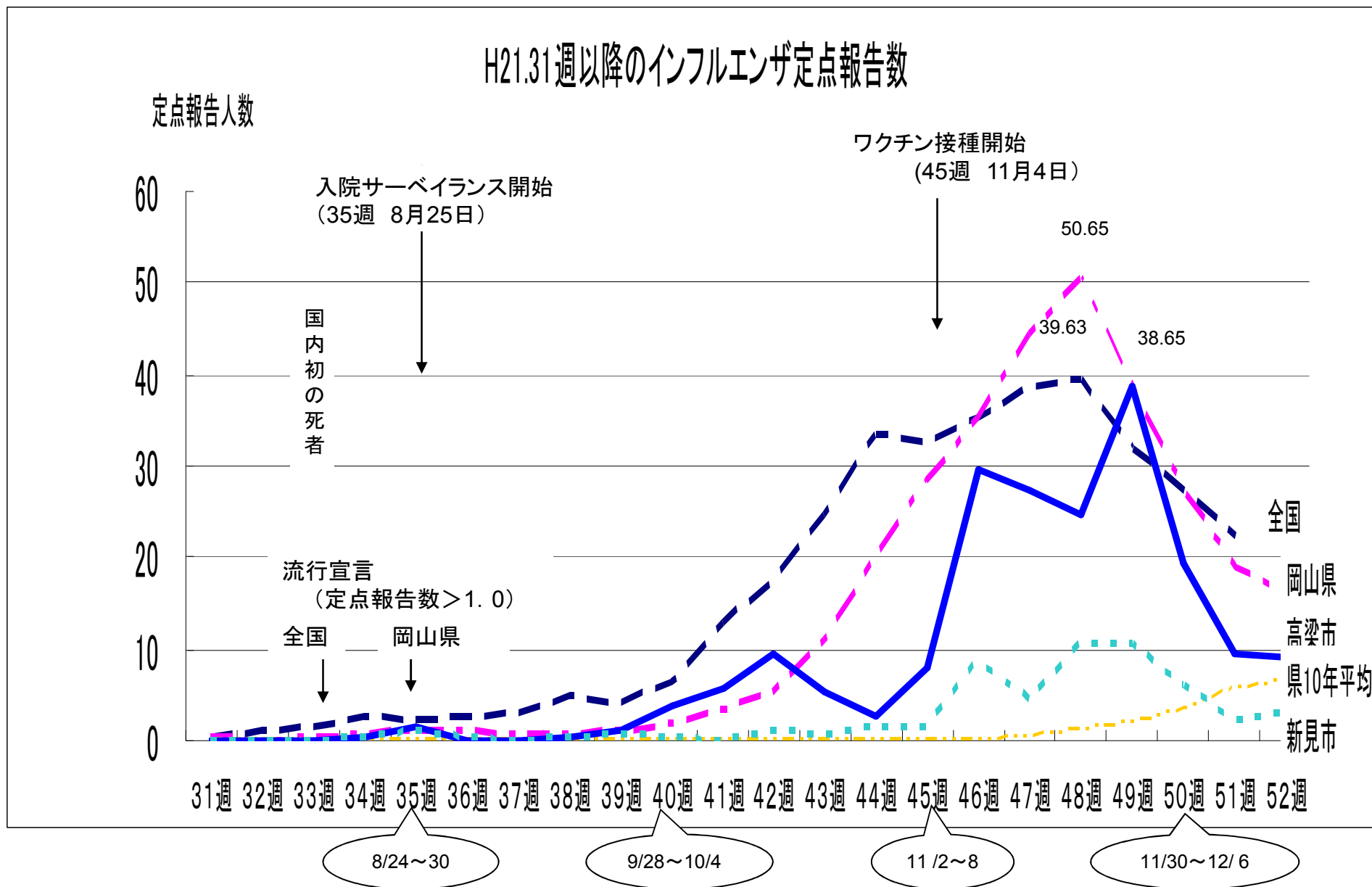
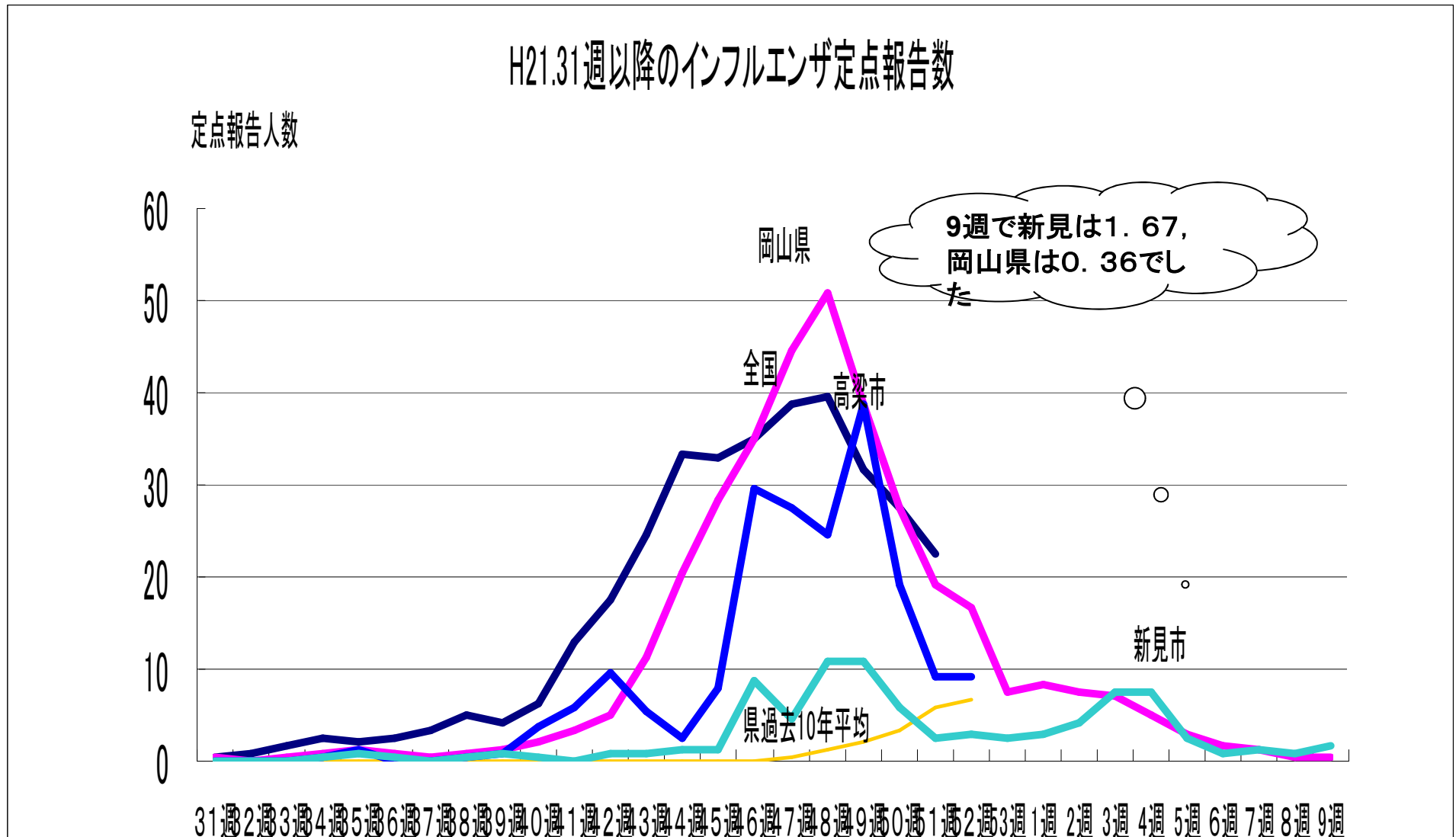


図2 今季の定点報告数の高梁での推移：全国との比較



52週以後の新見の定点報告数



定点報告によるインフルエンザ流行状況 (図1、図2)

全国は33週、岡山県では35週(8/24～30)から流行が始まり(定点報告数 >1.0)、13週目の48週(11/23～29)に全国とほぼ同時にピークを迎えました。

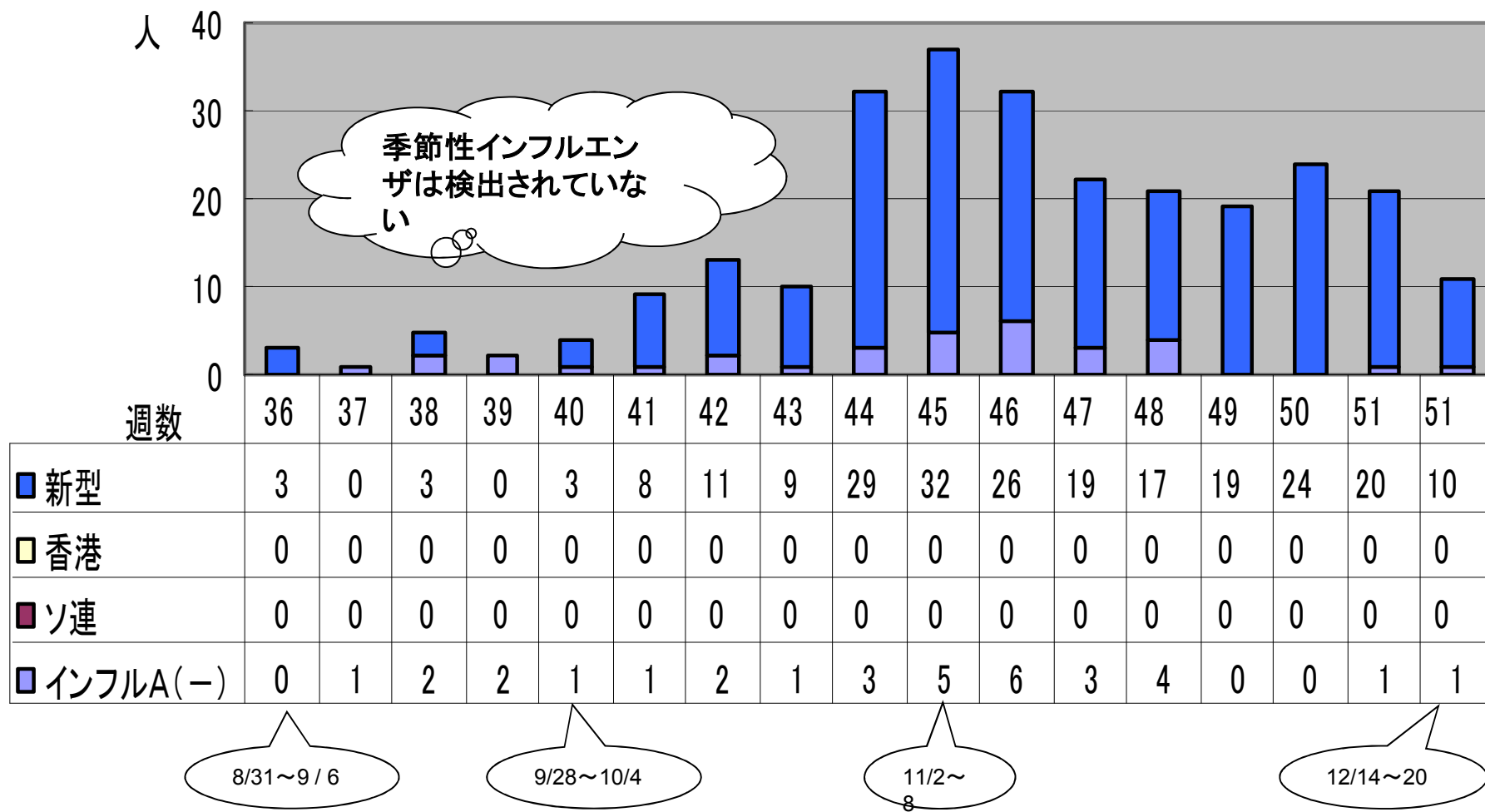
高梁でも35週から流行期にはいり、14週目の49週(11/30～12/6)でピークとなり、その後は現在まで減少しています。

全国的に季節性インフルエンザ(A香港、Aソ連、B)の今季の流行は確認されず、11月以降も今のところ新型インフルエンザのみの流行が確認されています。

Ⅱ. PCR検査結果について (1)入院患者について;岡山県

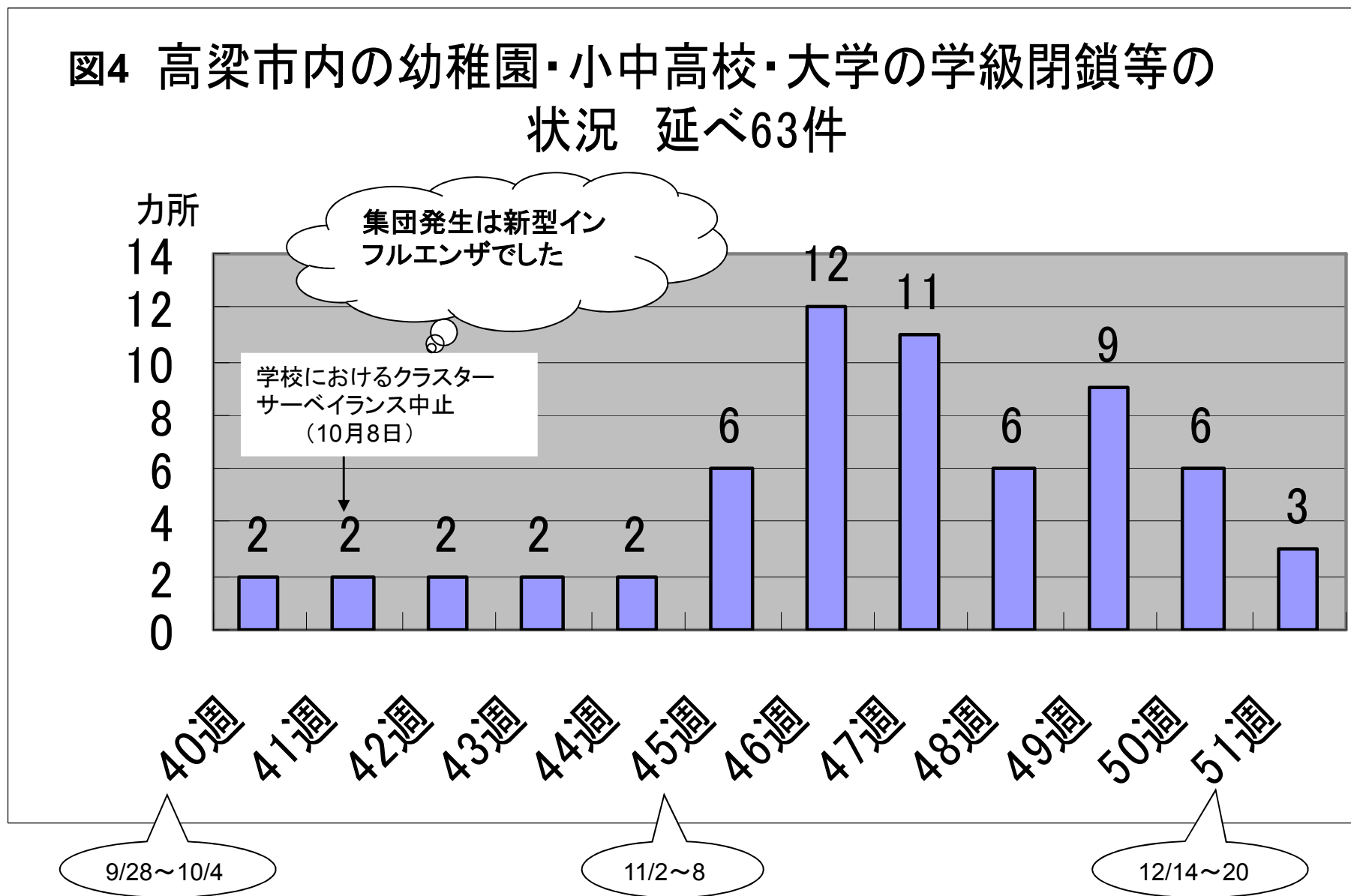
図3 岡山県内インフルエンザ様疾患
入院サーベイランス(平成21年8月31日～12月20日)

報告入院患者合計268人の内訳
ただし、高梁の外来サンプル13件を含む



Ⅱ-(2)学校のクラスター発生例に対するPCR検査結果について;岡山県

図4 高梁市内の幼稚園・小中高校・大学の学級閉鎖等の状況 延べ63件



PCR検査によるサーベイランス結果について (図3、図4)

岡山県の入院サーベイランス268人(H21.8.25～12.27)や集団発生に対するクラスターサーベイランス(8月25日開始、10月8日には学校は中止、医療機関や社会福祉施設は現在継続中)は新型であり、季節性インフルエンザ(A香港、Aソ連、B)は検出されていない。

なお、入院治療を必要としたのは高梁市民では11月に1名(小学生)のみであった。

Ⅲ. 高梁医師会のインフルエンザ患者報告事業について (図5、図6)

○平成21年8月21日から独自に開始

○参加医療機関数

7病院・38診療所(高梁医師会全医療機関)

うち高梁市5病院・36診療所

吉備中央町賀陽地域2病院・2診療所

○実施内容

流行拡大防止と適切な治療を目的に高梁地域における流行状況を把握するため、各医療機関を受診したインフルエンザ患者について、年齢等を医師会事務局に報告・集積する

○報告数(現在も継続中)

4ヶ月間(8月21日～12月28日)のまとめについて

A型インフルエンザ1517人(12月以降は疑いを含む)

うち0～2才51人、3～6才156人、小学生438人

中学生236人、高校生199人、～59才423人、60才以上14人

B型インフルエンザ8人

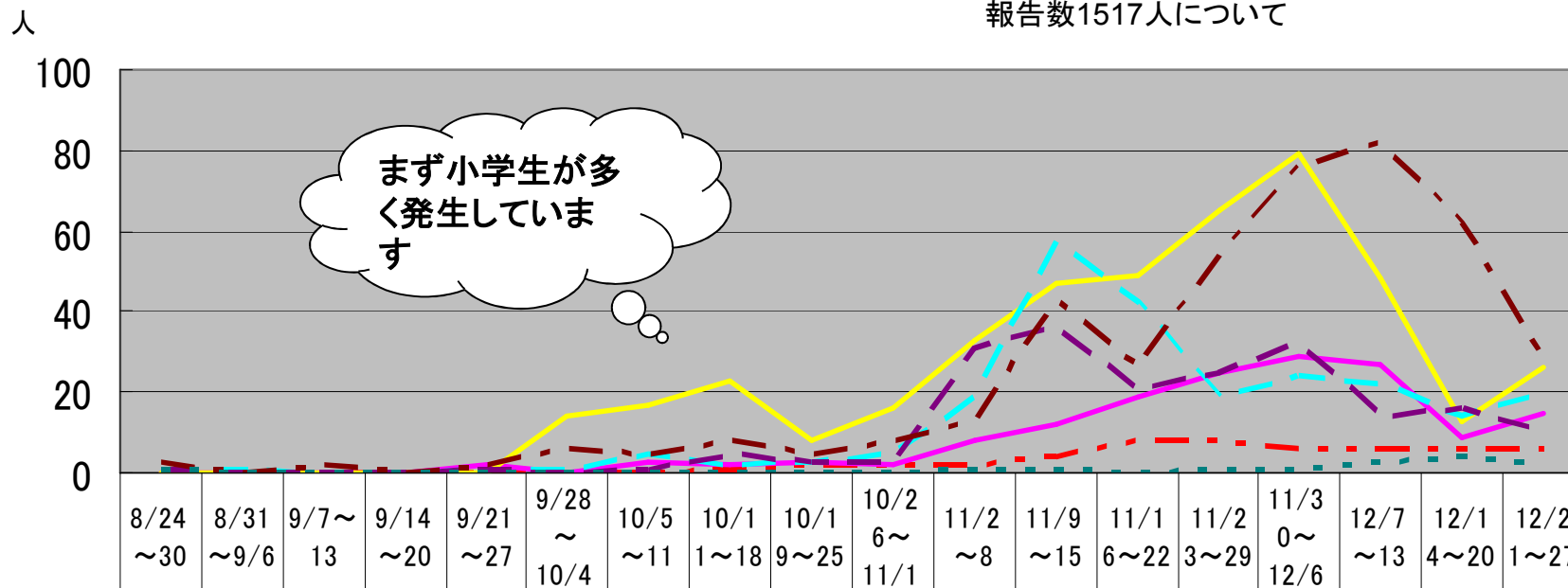
うち3～6才2人、小学生5人、高校生1人

高梁地域における年齢別受診人数の推移

～高梁医師会による 受診患者報告事業から～

図5 年齢別受診状況

平成21年8月24日～12月27日受診患者
報告数1517人について

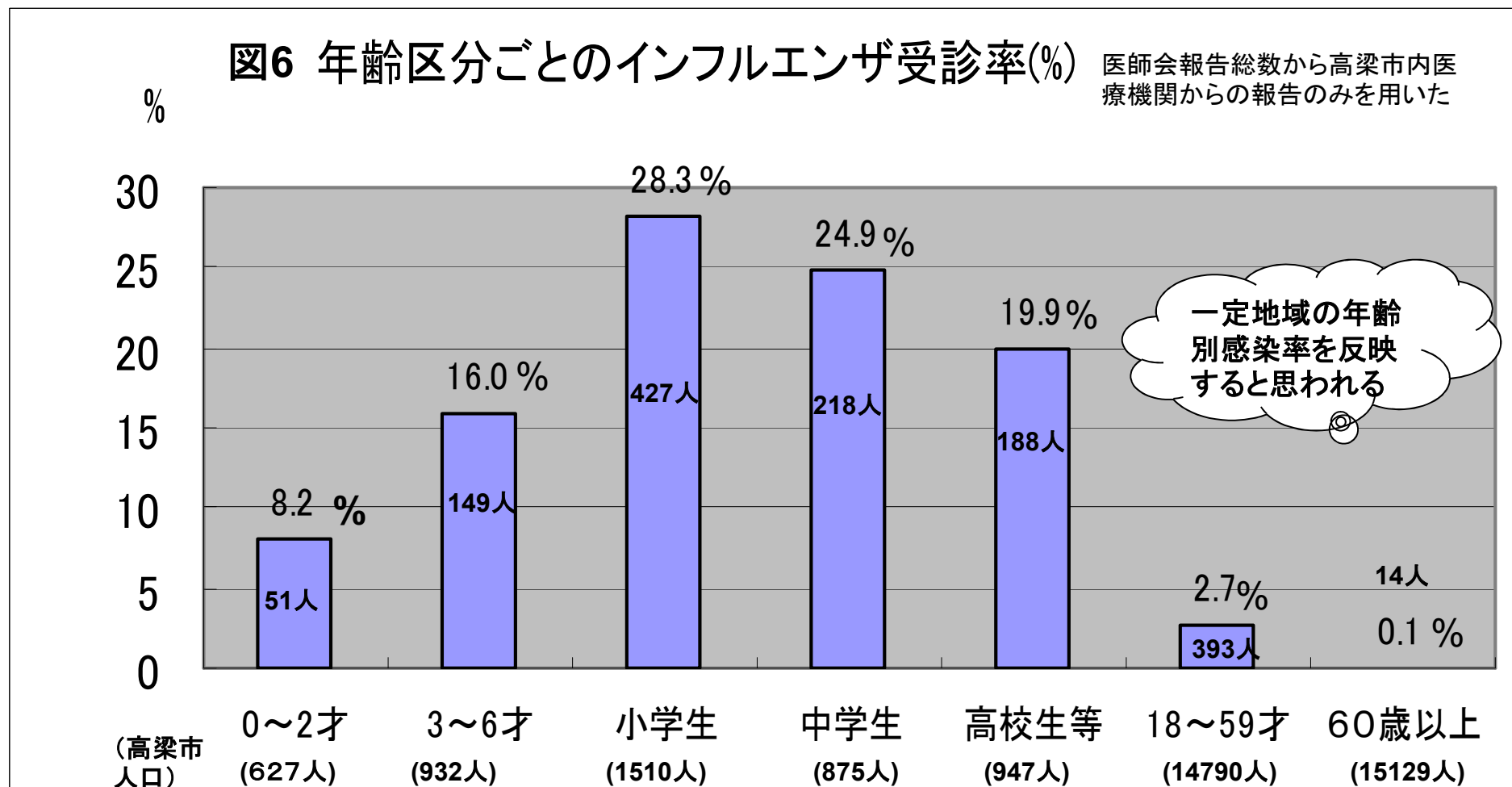


0~2才	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	2	4	8	8	6	6	6	6
3~6才	0	0	0	0	2	0	3	2	3	2	8	12	19	25	29	27	9	15
小学生	0	0	0	0	0	14	17	23	8	16	33	47	49	65	79	48	13	26
中学生	1	1	0	0	1	1	5	2	3	5	19	57	42	19	24	22	14	20
高校生等	1	0	0	0	1	0	1	5	3	3	31	36	21	25	32	14	16	10
18~59才	3	0	2	0	2	6	5	8	5	8	13	43	26	54	76	82	62	28
60歳以上	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	3	4	2

高梁市における年齢別受診率(H21年8月21日~12月27日)

市内住民のインフルエンザAによる外来受診者は
1440人であり、これは全市民の4.4%にあたる

高梁市人口34805人(H21.12.31現在)



まとめ

～高梁地域のインフルエンザ流行状況(7/21～12/27)～

- (1) 35週(8/24～8/30)に定点報告数が1を超え、流行期に入った。12月16日と24日に採取した計13例のPCRによるサンプル調査では、11例が新型インフルエンザで、判定保留とA(ー)がそれぞれ1名であった。全国と同様に、今季は11月以降も季節性インフルエンザの流行は確認されていない。経過中、高梁の入院患者は小学生が1名(発熱・呼吸困難)報告されている。
- (2) まず、小学生の間で流行が先行し、その後各年齢層に流行がみられた。流行は14週間ほどでピークを迎え、11月30日からは終息を始めた。経過中ワクチンは11月4日から12月末までに数回にわたって計5425回接種分(成人換算)が確保されたが、効果出現前に高梁での流行は終息に向かったと思われる。
- (3) 年齢区分による感染状況は特徴的で、60才以上0.1%、成人2.7%に対して、小学生28%・中学生25%、高校生20%と高率に発症していた。0～2才8%(自宅児8.3%,保育園児7.8%)、3～6才16%(幼稚園児4.5%,保育園児35.9%)であった。

備北保健所管内における
新型インフルエンザ流行状況について
12月末までの経過

平成22年3月19日

新見病院職員研修会

岡山県備北保健所

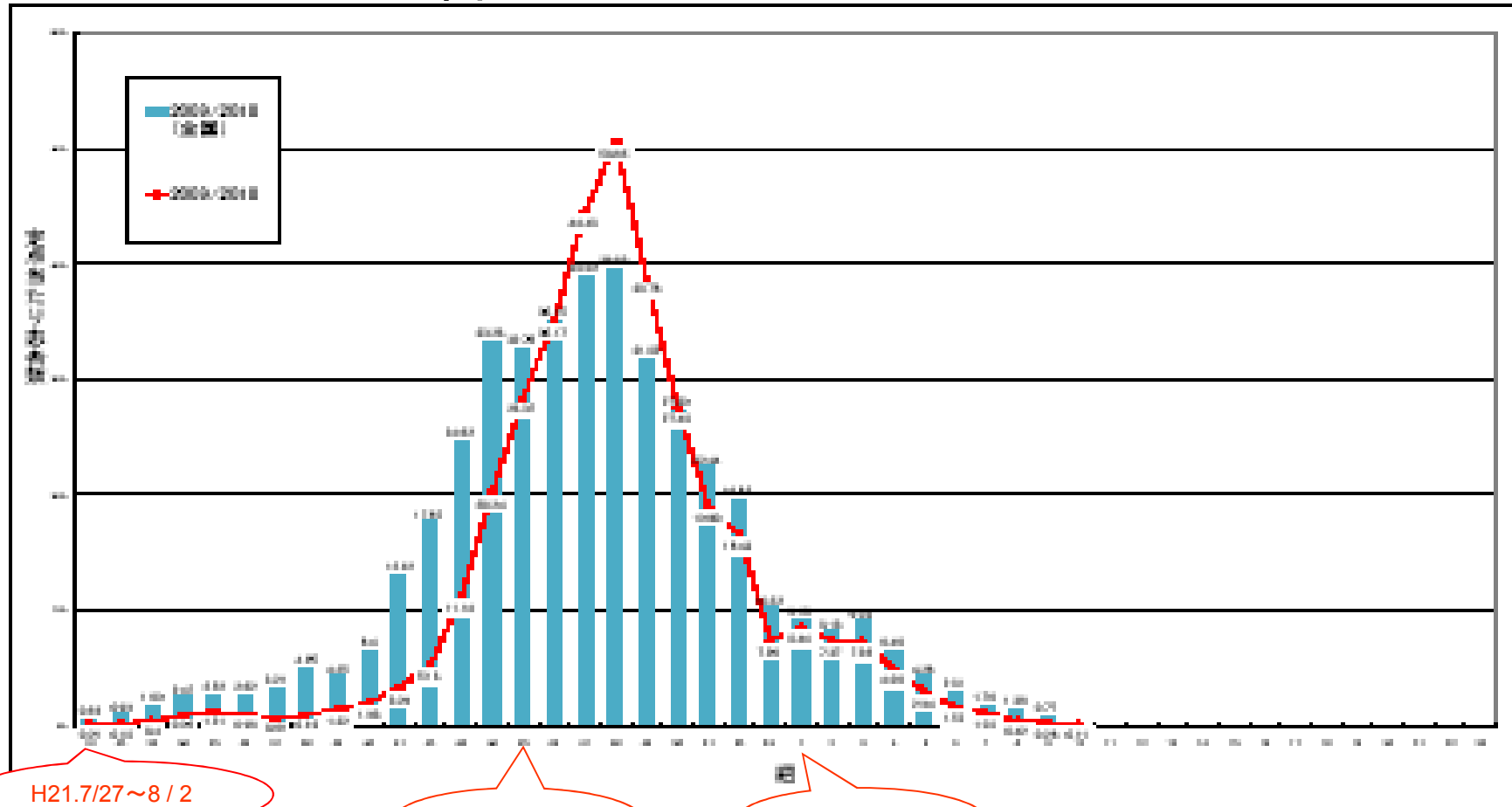
所長 阿部ゆり子

I. 定点医療機関からの報告件数について

図1 の折れ線グラフは岡山県の患者報告数の推移
棒グラフは全国の定点報告数の推移

図1 インフルエンザ流行の状況

資料：岡山県保健医療センター
図例：1000人当たり1週間あたり報告件数(全国)の推移



H21.7.27~8/2

H21.11/2~8

H22.1/4~10

図2 今季の定点報告数の推移：H21.12.28まで

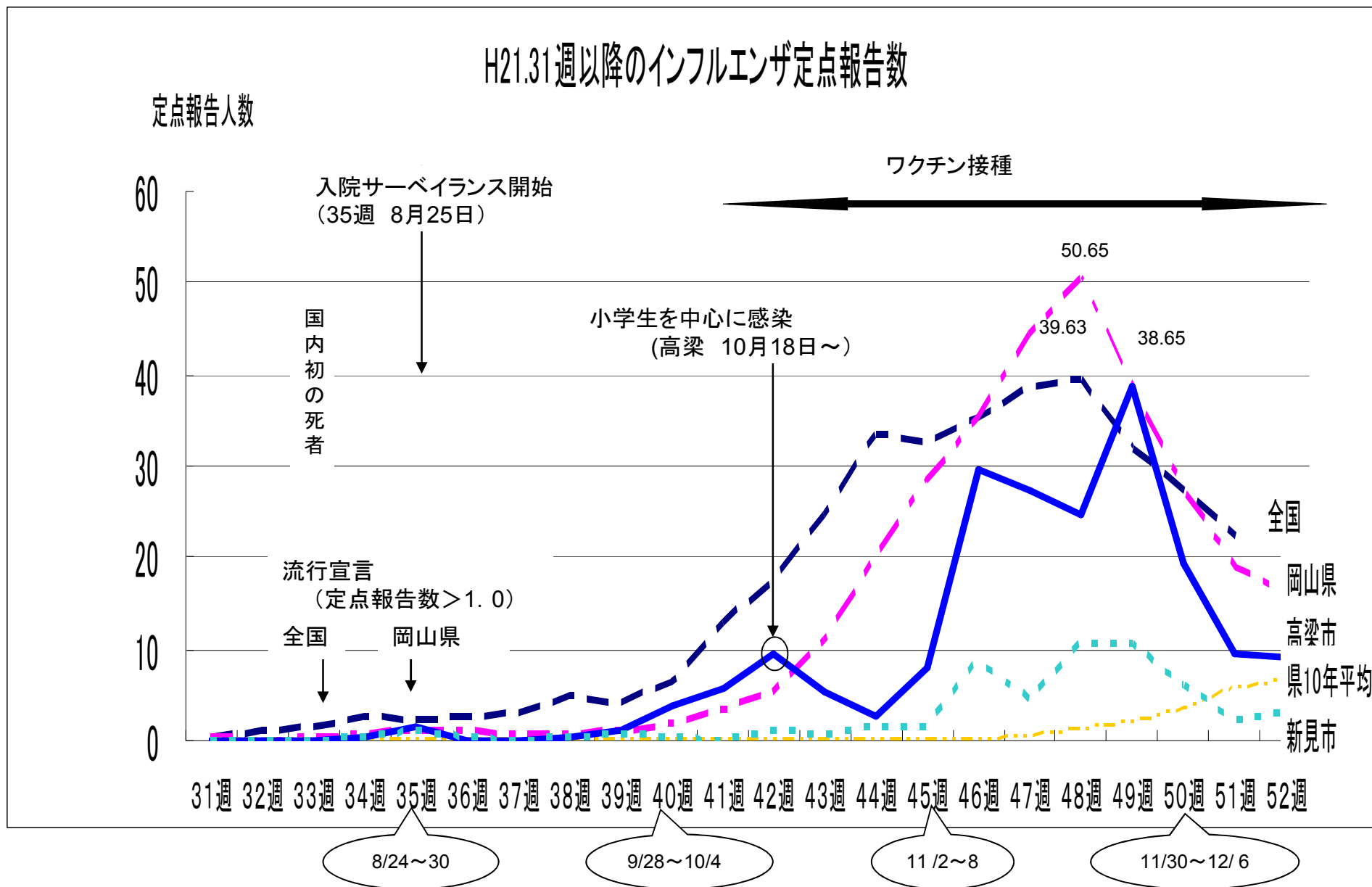
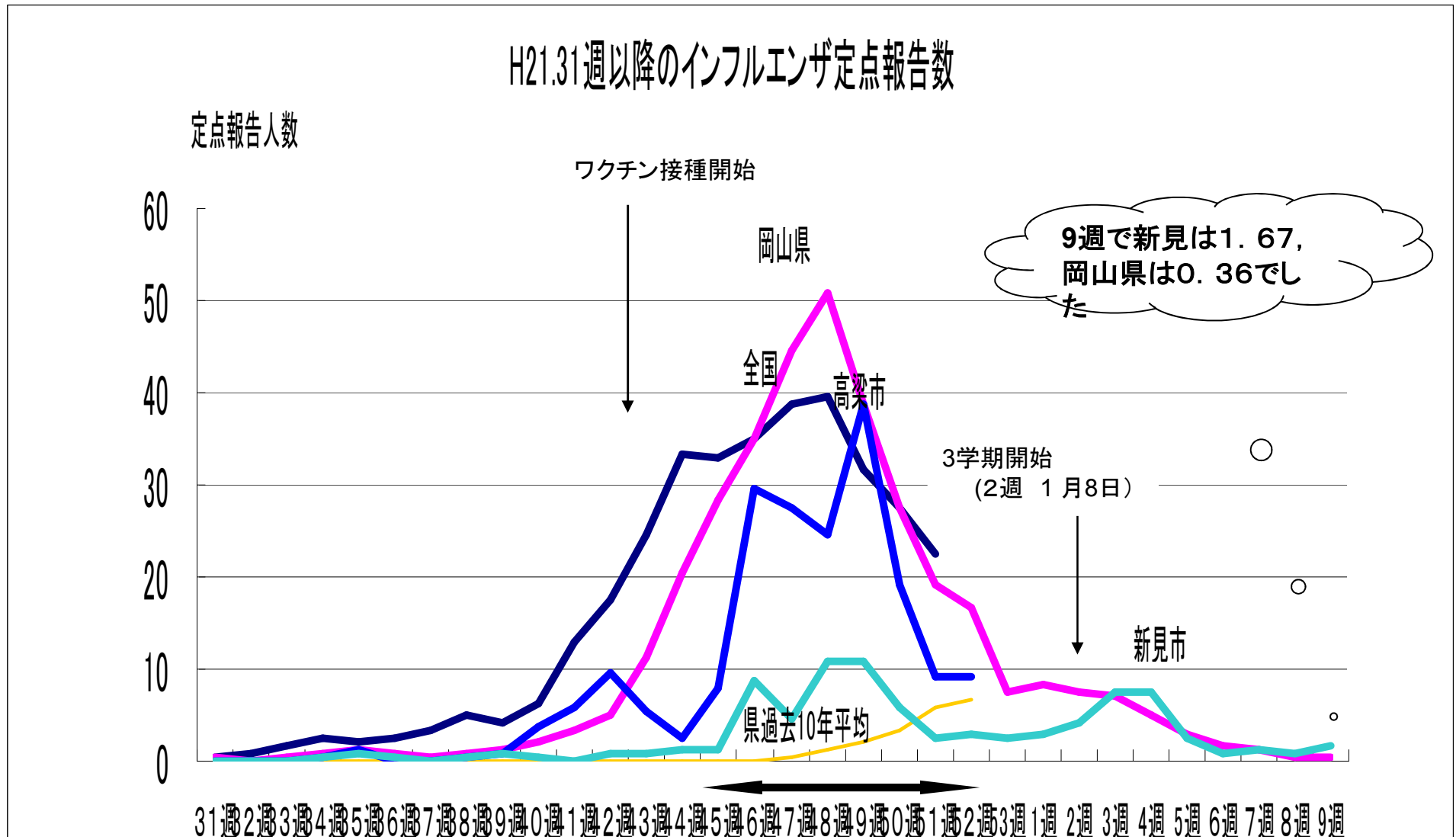


図2-2 新見の定点報告数；主に52週以降



定点報告によるインフルエンザ流行状況 (図1、図2)

全国は33週、岡山県では35週(8/24～30)から流行が始まり(定点報告数 >1.0)、13週目の48週(11/23～29)に全国とほぼ同時にピークを迎えました。

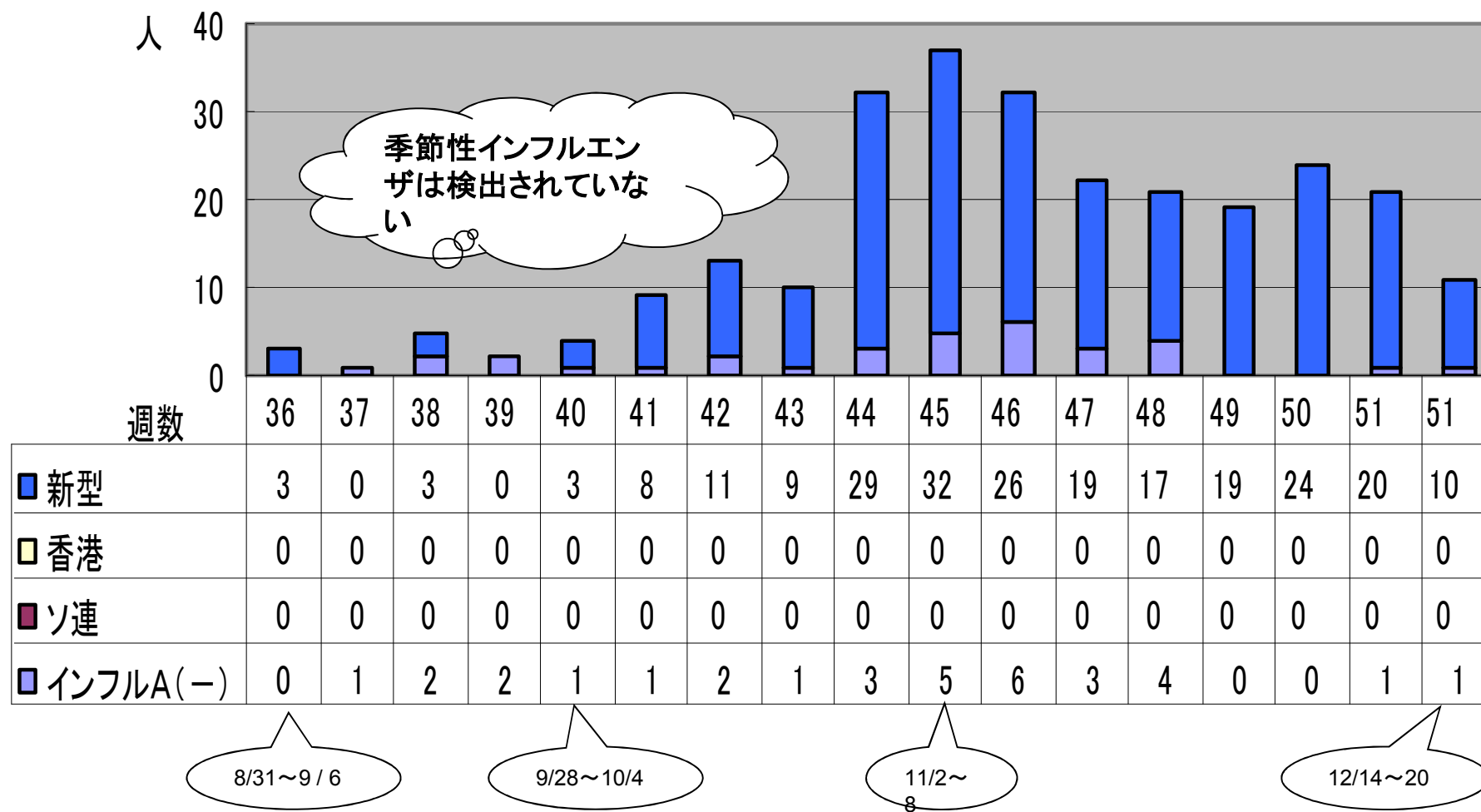
新見は、42週(11/11～)から流行が始まり、はっきりとしたピークはみられないまま、17週目の6週(H22.28/2～)には終息傾向を示しています。

図2 →新見では流行開始が遅れたことも幸いして、
予防接種効果が得られた可能性大きい
また、小学校での感染増幅をかなり回避している

Ⅱ. PCR検査結果について (1)入院患者について;岡山県

図3 岡山県内インフルエンザ様疾患
入院サーベイランス(平成21年8月31日～12月20日)

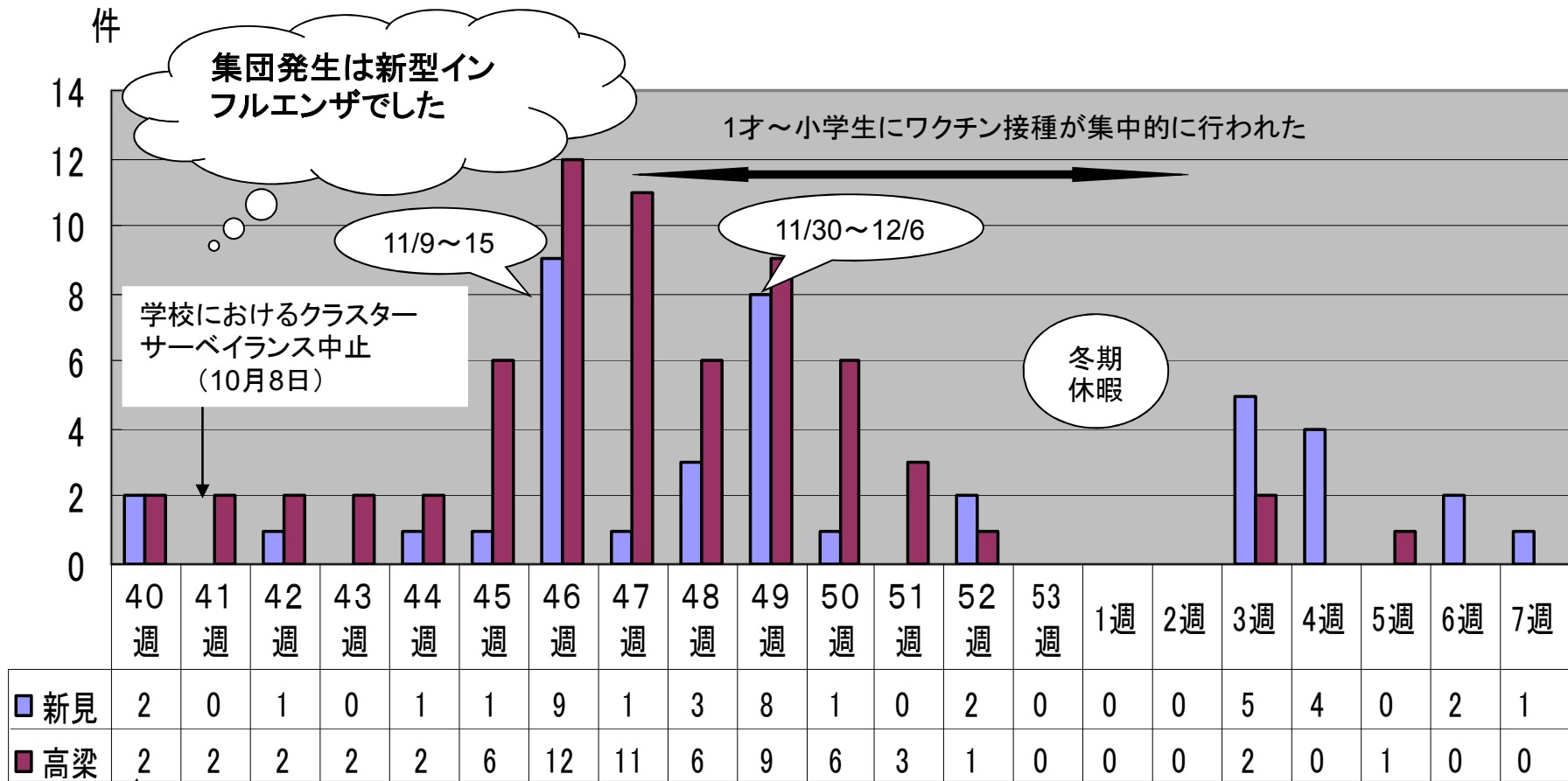
報告入院患者合計268人の内訳
ただし、高梁の外来サンプル13件を含む



Ⅱ-(2) 学校のクラスター発生例に対するPCR検査結果について; 岡山県

図4 学級・学校閉鎖等
(保育園・幼稚園・小中学校・高校・大学等)

延べ 高梁66カ所
新見41カ所



9/28～10/4

11/2～8

12/14～20

PCR検査によるサーベイランス結果について (図3、図4)

岡山県の入院サーベイランス268人(H21.8.25～12.27)や集団発生に対するクラスターサーベイランス(8月25日開始、10月8日には学校は中止、医療機関や社会福祉施設は現在継続中)は新型であり、季節性インフルエンザ(A香港、Aソ連、B)は検出されず、今のところ新型インフルエンザのみの流行が確認されています。

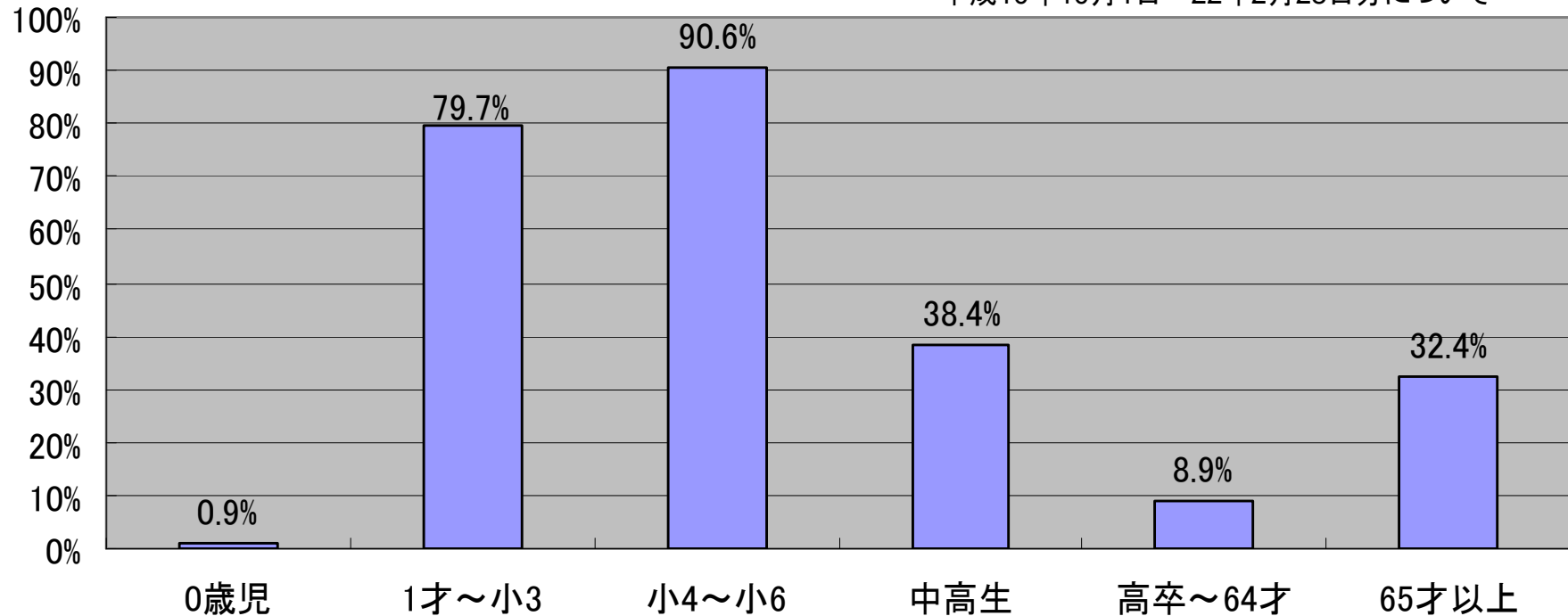
12月以降の、新見市内サンプル調査18件の内15件が新型、3件がA(ー)でした。

なお、入院治療を必要としたとして報告されたのは、備北保健所管内では11月に1名(小学生)のみでした。

Ⅲ. ワクチン接種について

図5 年齢別新型インフルエンザワクチン接種率(新見市分)

平成10年10月1日～22年2月28日分について

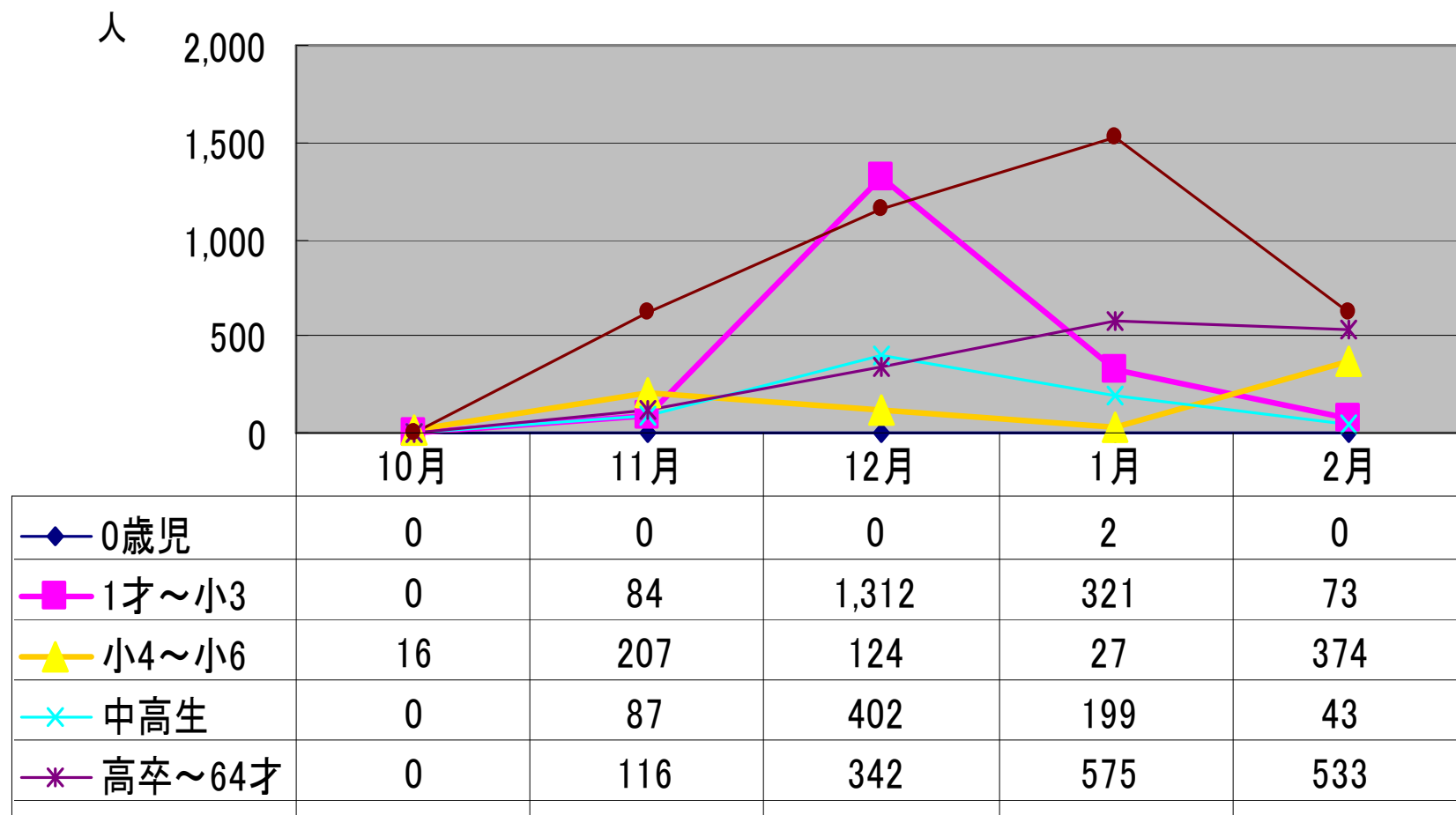


新型ワクチンは、10月から医療従事者、11月から基礎疾患のある人、12月には幼児と小学生を中心に接種が行われた。新見の接種率は高く、このことが小学校での感染増幅を抑え、当地域の発生ピークを低くした一因と考えられる。

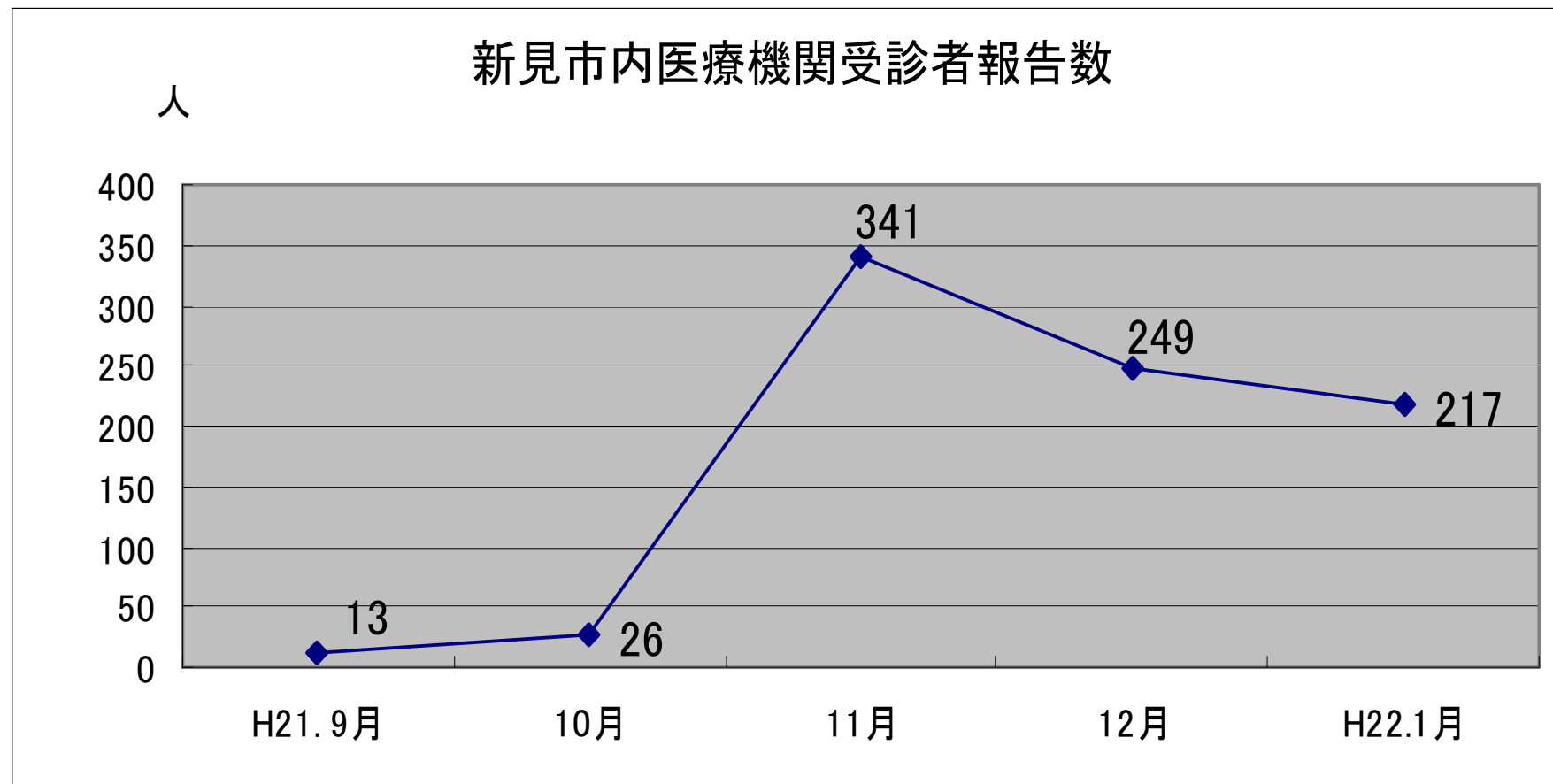
(総数では8,683人、新見市34,808人の25%が接種を受けている)

Ⅲ-2. ワクチン接種について

図6 平成21年 新型インフルエンザワクチン接種人数
(新見市分)



IV. 新見医師会のインフルエンザ患者報告について



平成21年9月～22年1月の新見医師会への
インフルエンザ患者報告累計は846人で
新見市民の2.4%でした

V. まとめ

～新見地域のインフルエンザ流行状況(7/21～2/28)

- (1) 42週(11/11～)に1をこえ流行期に入った。
サンプル調査で行ったPCR検査18例中15例が
新型インフルエンザであった。
- (2) 一般に言われる「小学校での感染増幅」は新見
では少なかった。○適切な学級閉鎖措置がなされた
○流行開始が遅れたことにより予防接種が間に合った
○小学生の予防接種率が高かった
- (3) 9月～1月で人口の2.4%の人の感染報告がなされ、
10月～2月で人口の25%がワクチン接種を受けた。
特に小学生の接種率は高く、1～3年生80%、4～6年生
91%であった。
- (4) 5週(H22.2.1～)以降終息傾向であるが、9週(3/1～)
には定点報告が1.67であり、いまだ1をこえている。

V-2 参考. 高梁医師会のインフルエンザ患者報告事業について (図5、図6)

○平成21年8月21日から独自に開始

○参加医療機関数

7病院・38診療所(高梁医師会全医療機関)

うち高梁市5病院・36診療所

吉備中央町賀陽地域2病院・2診療所

○実施内容

流行拡大防止と適切な治療を目的に高梁地域における流行状況を把握するため、各医療機関を受診したインフルエンザ患者について、年齢等を医師会事務局に報告・集積する

○報告数(現在も継続中)

4ヶ月間(8月21日～12月28日)のまとめについて

A型インフルエンザ1517人(12月以降は疑いを含む)

うち0～2才51人、3～6才156人、小学生438人

中学生236人、高校生199人、～59才423人、60才以上14人

B型インフルエンザ8人

うち3～6才2人、小学生5人、高校生1人

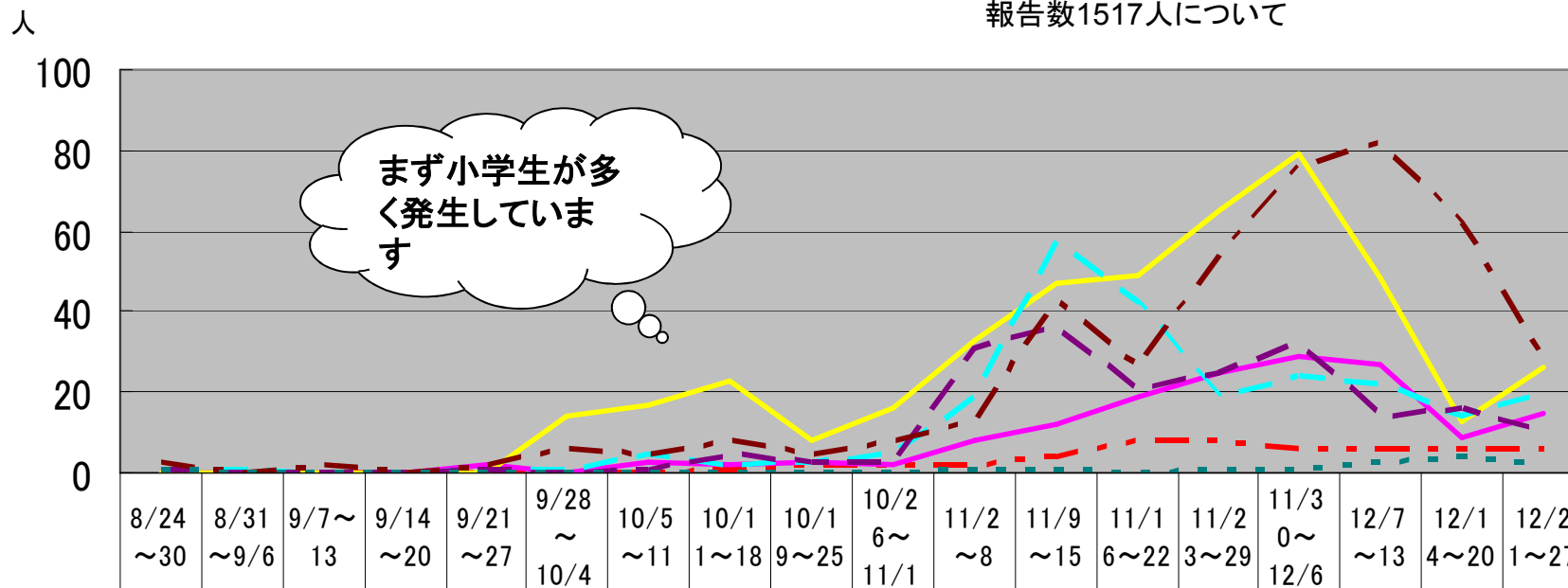
高梁地域における年齢別受診人数の推移

参考

～高梁医師会による 受診患者報告事業から～

図7 年齢別受診状況

平成21年8月24日～12月27日受診患者
報告数1517人について

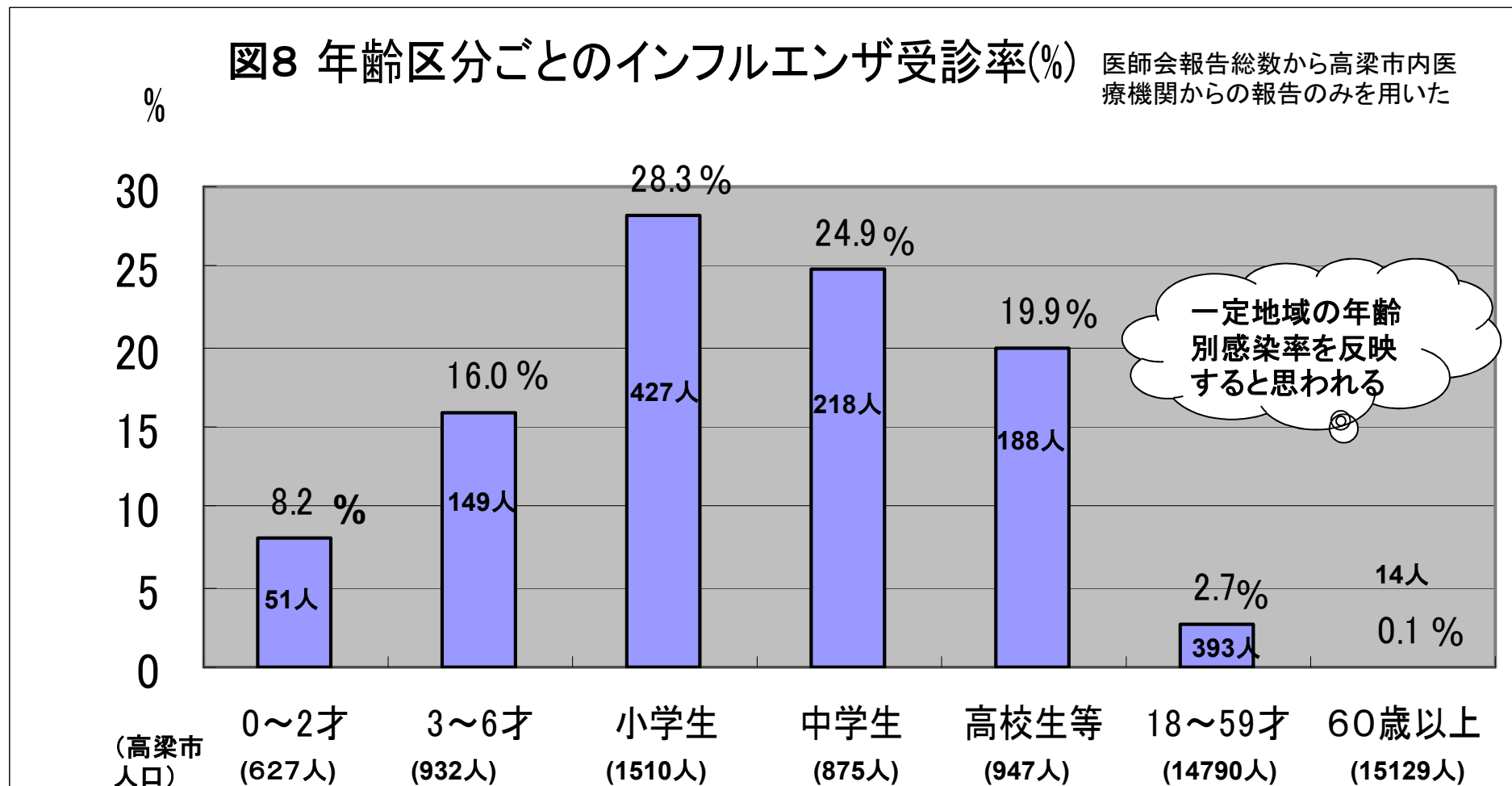


0~2才	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	2	4	8	8	6	6	6	6
3~6才	0	0	0	0	2	0	3	2	3	2	8	12	19	25	29	27	9	15
小学生	0	0	0	0	0	14	17	23	8	16	33	47	49	65	79	48	13	26
中学生	1	1	0	0	1	1	5	2	3	5	19	57	42	19	24	22	14	20
高校生等	1	0	0	0	1	0	1	5	3	3	31	36	21	25	32	14	16	10
18~59才	3	0	2	0	2	6	5	8	5	8	13	43	26	54	76	82	62	28
60歳以上	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	3	4	2

高梁市における年齢別受診率(H21年8月21日~12月27日)

市内住民のインフルエンザAによる外来受診者は
1440人であり、これは全市民の4.4%にあたる

高梁市人口34805人(H21.12.31現在)



まとめ

～高梁地域のインフルエンザ流行状況(7/21～12/27)～

- (1) 35週(8/24～8/30)に定点報告数が1を超え、流行期に入った。12月16日と24日に採取した計13例のPCRによるサンプル調査では、11例が新型インフルエンザで、判定保留とA(ー)がそれぞれ1名であった。全国と同様に、今季は11月以降も季節性インフルエンザの流行は確認されていない。経過中、高梁の入院患者は小学生が1名(発熱・呼吸困難)報告されている。
- (2) まず、小学生の間で流行が先行し、その後各年齢層に流行がみられた。流行は14週間ほどでピークを迎え、11月30日からは終息を始めた。経過中ワクチンは11月4日から12月末までに数回にわたって計5425回接種分(成人換算)が確保されたが、効果出現前に高梁での流行は終息に向かったと思われる。
- (3) 年齢区分による感染状況は特徴的で、60才以上0.1%、成人2.7%に対して、小学生28%・中学生25%、高校生20%と高率に発症していた。0～2才8%(自宅児8.3%,保育園児7.8%)、3～6才16%(幼稚園児4.5%,保育園児35.9%)であった。

備北保健所管内における
新型インフルエンザ流行状況について
12月末までの経過

平成22年3月19日

新見病院職員研修会

岡山県備北保健所

所長 阿部ゆり子

I. 定点医療機関からの報告件数について

図1 の折れ線グラフは岡山県の患者報告数の推移
棒グラフは全国の定点報告数の推移

図1 インフルエンザ流行の状況

資料：岡山県保健医療センター
図例：10000人の定点報告数を100と仮定した場合の状況

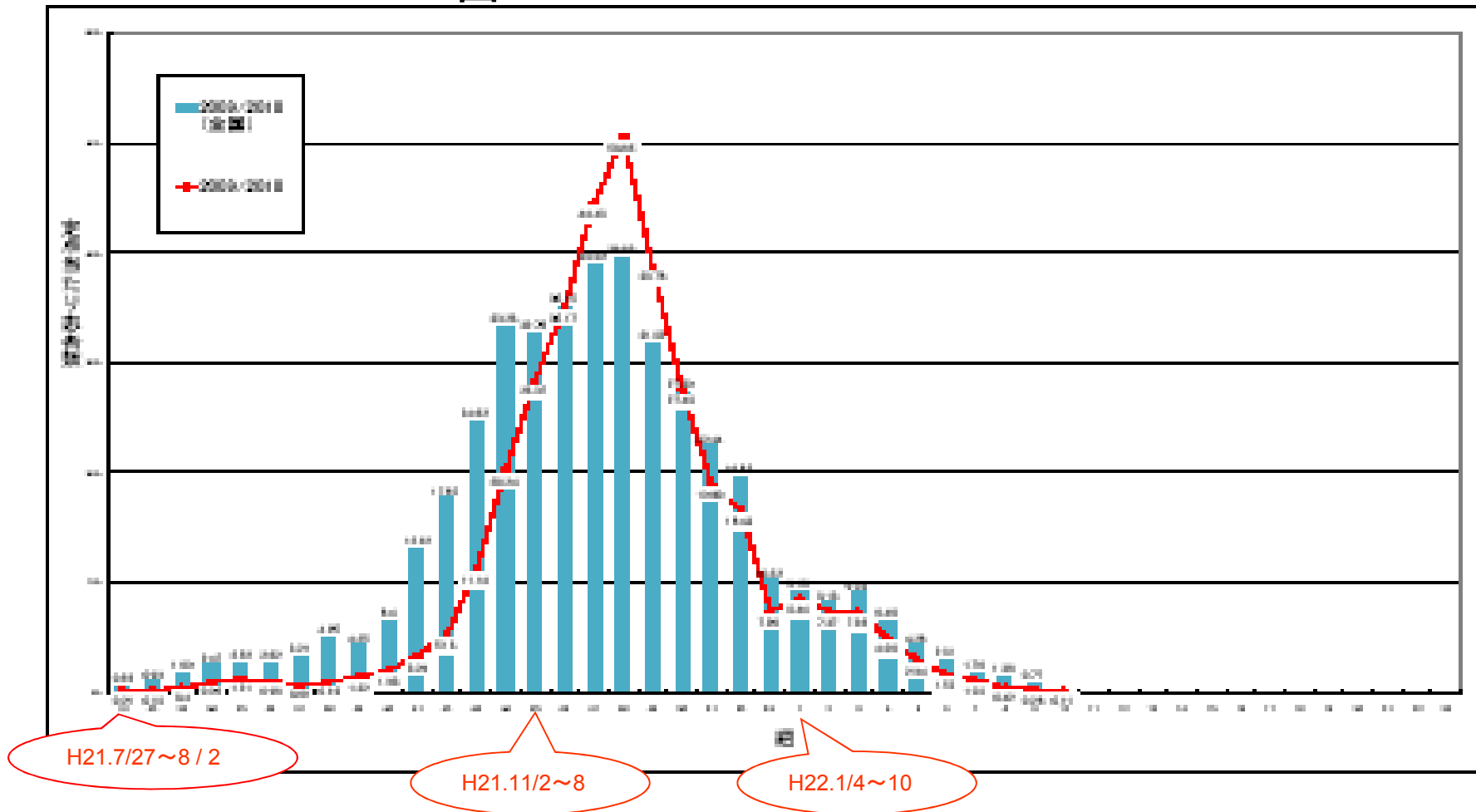


図2 今季の定点報告数の推移：H21.12.28まで

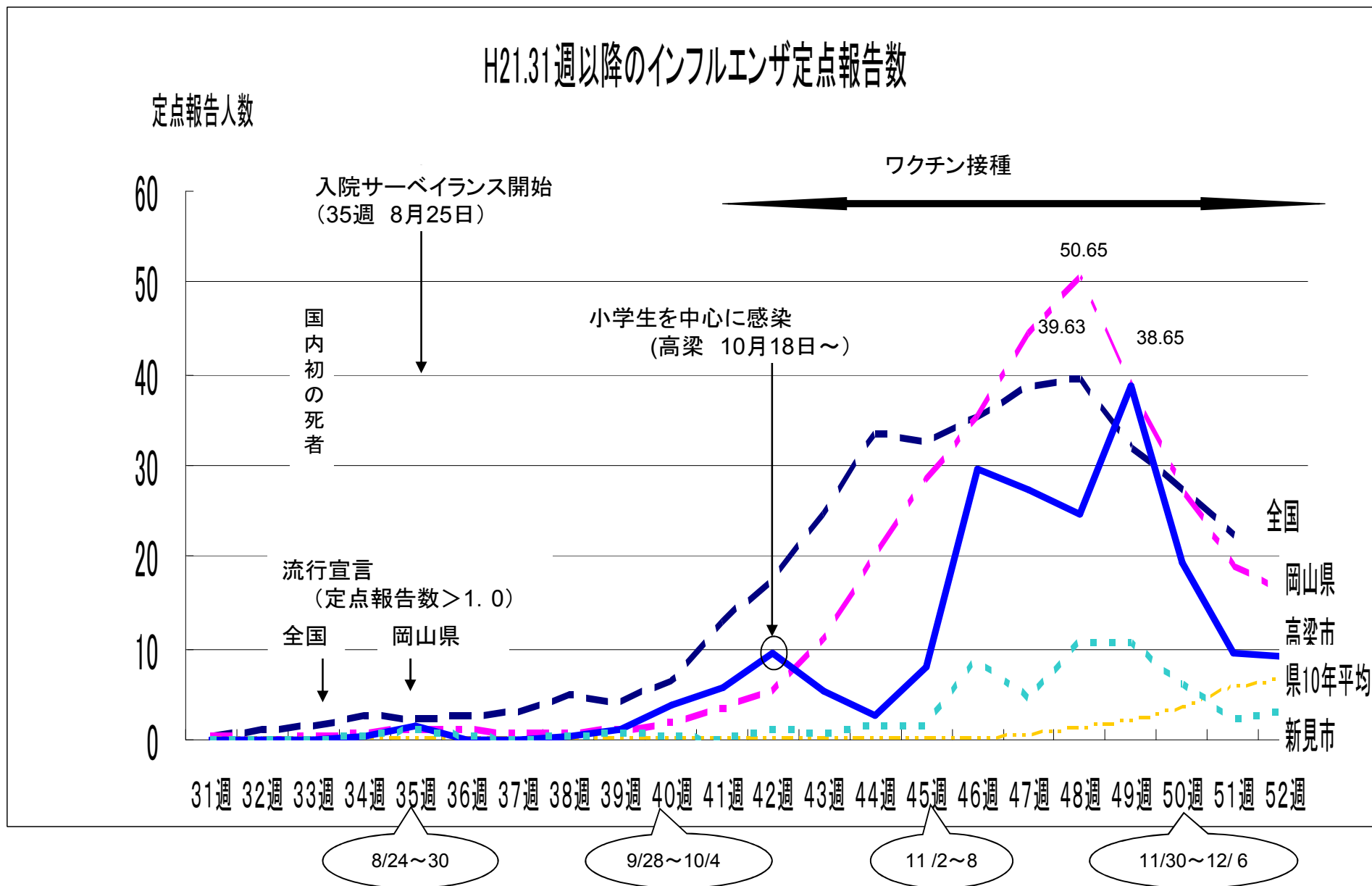
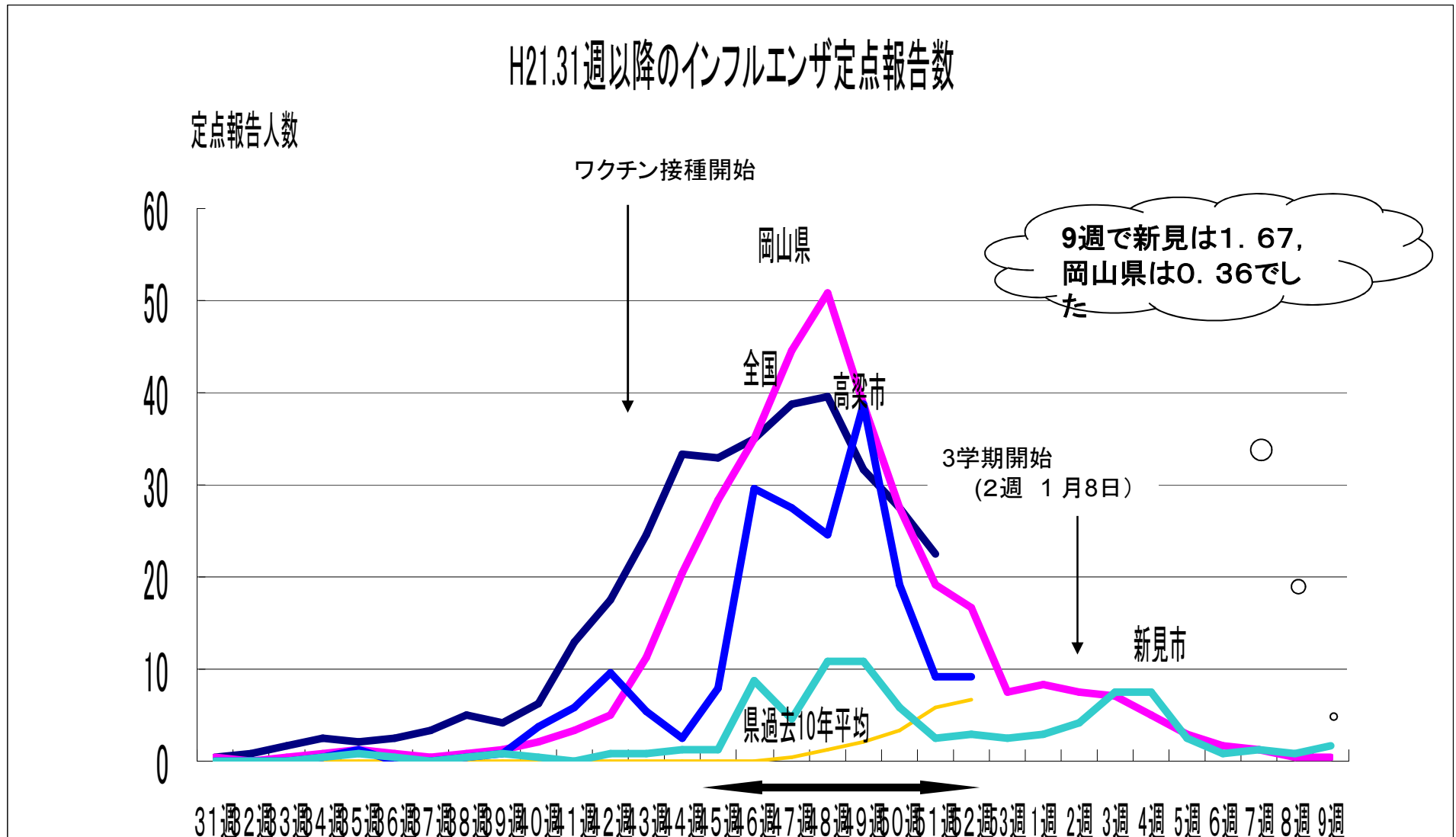


図2-2 新見の定点報告数；主に52週以降



定点報告によるインフルエンザ流行状況 (図1、図2)

全国は33週、岡山県では35週(8/24～30)から流行が始まり(定点報告数 >1.0)、13週目の48週(11/23～29)に全国とほぼ同時にピークを迎えました。

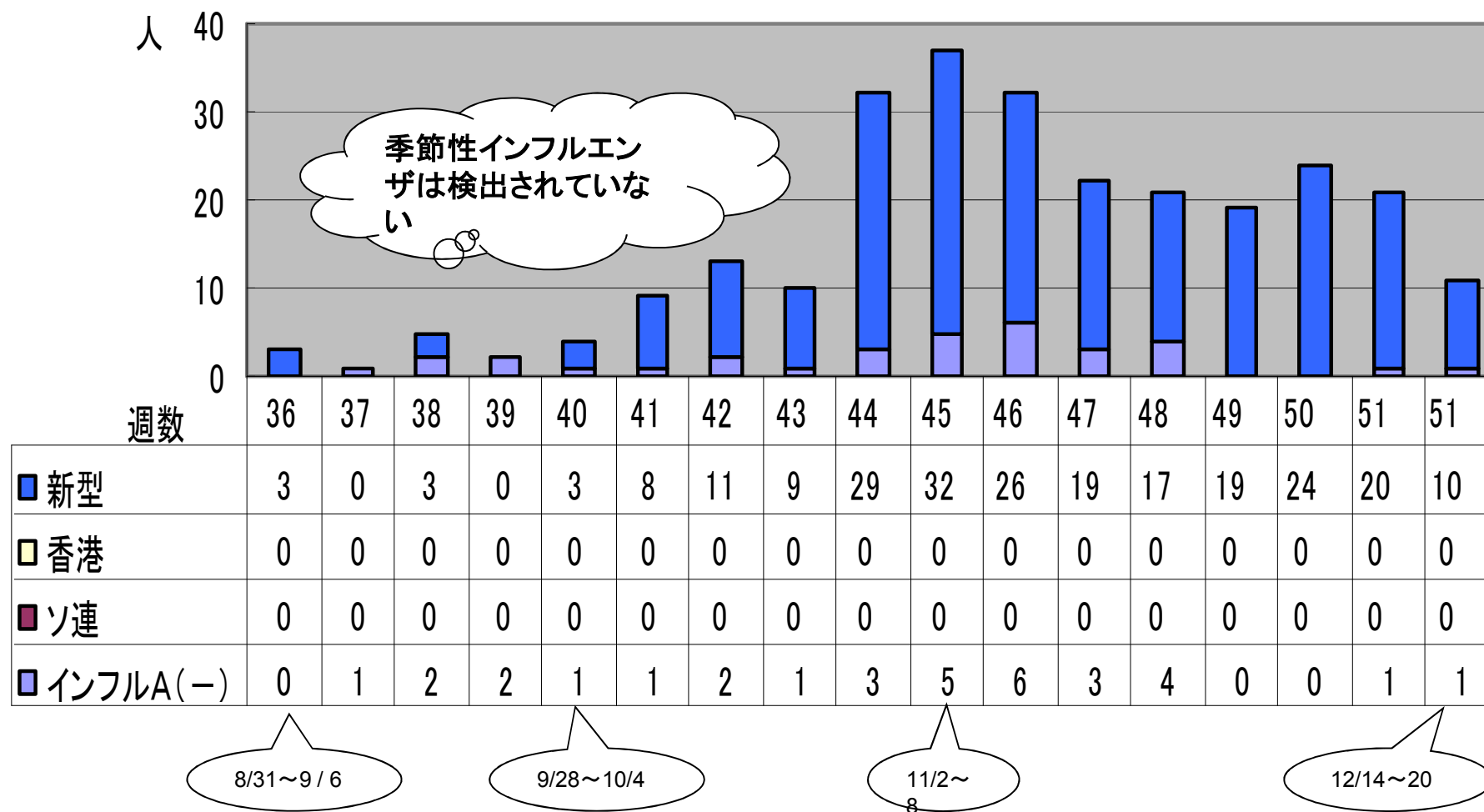
新見は、42週(11/11～)から流行が始まり、はっきりとしたピークはみられないまま、17週目の6週(H22.28/2～)には終息傾向を示しています。

図2 →新見では流行開始が遅れたことも幸いして、
予防接種効果が得られた可能性大きい
また、小学校での感染増幅をかなり回避している

Ⅱ. PCR検査結果について (1)入院患者について;岡山県

図3 岡山県内インフルエンザ様疾患
入院サーベイランス(平成21年8月31日～12月20日)

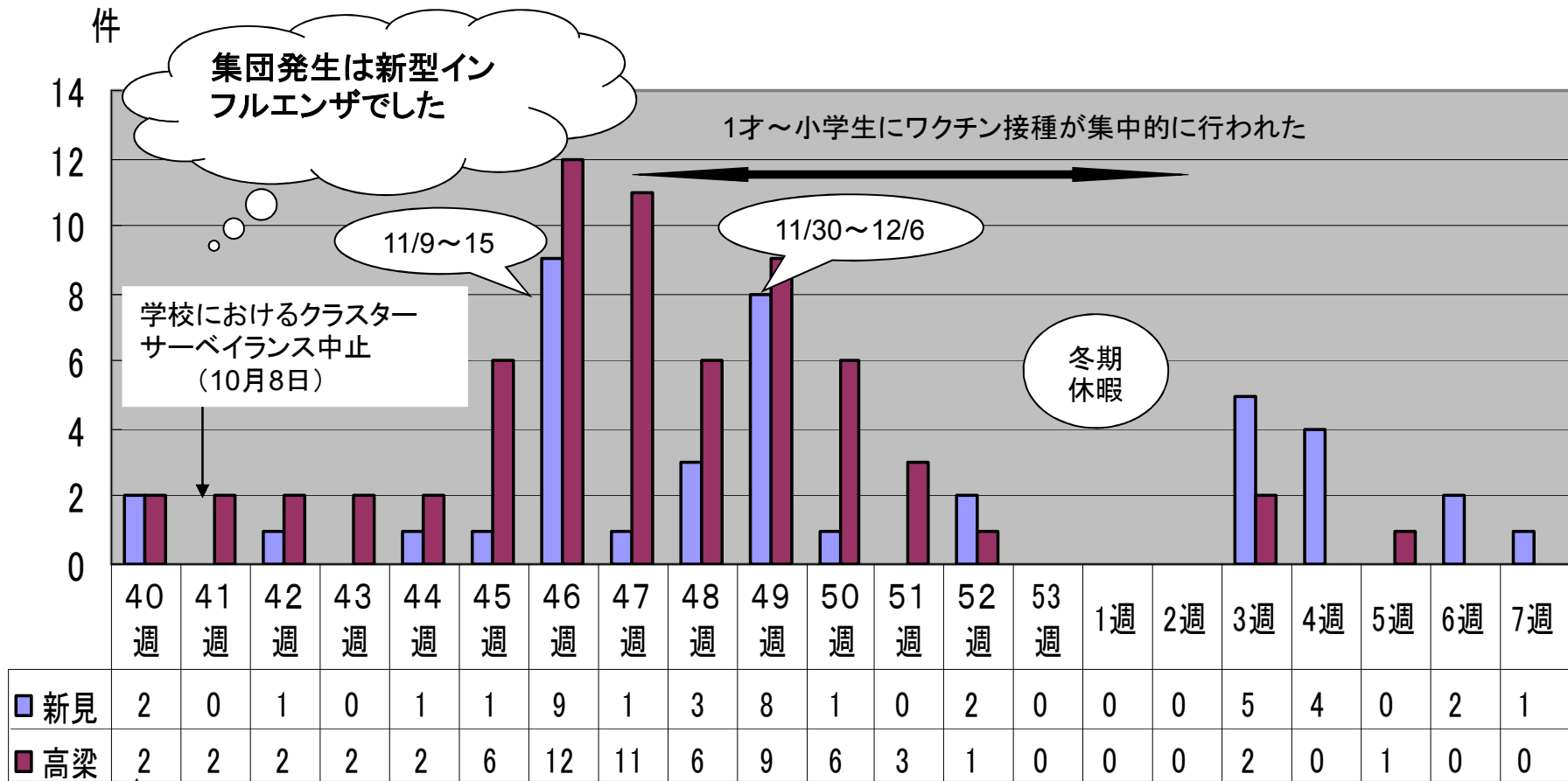
報告入院患者合計268人の内訳
ただし、高梁の外来サンプル13件を含む



Ⅱ-(2) 学校のクラスター発生例に対するPCR検査結果について; 岡山県

図4 学級・学校閉鎖等
(保育園・幼稚園・小中学校・高校・大学等)

延べ 高梁66カ所
新見41カ所



9/28~10/4

11/2~8

12/14~20

PCR検査によるサーベイランス結果について (図3、図4)

岡山県の入院サーベイランス268人(H21.8.25～12.27)や集団発生に対するクラスターサーベイランス(8月25日開始、10月8日には学校は中止、医療機関や社会福祉施設は現在継続中)は新型であり、季節性インフルエンザ(A香港、Aソ連、B)は検出されず、今のところ新型インフルエンザのみの流行が確認されています。

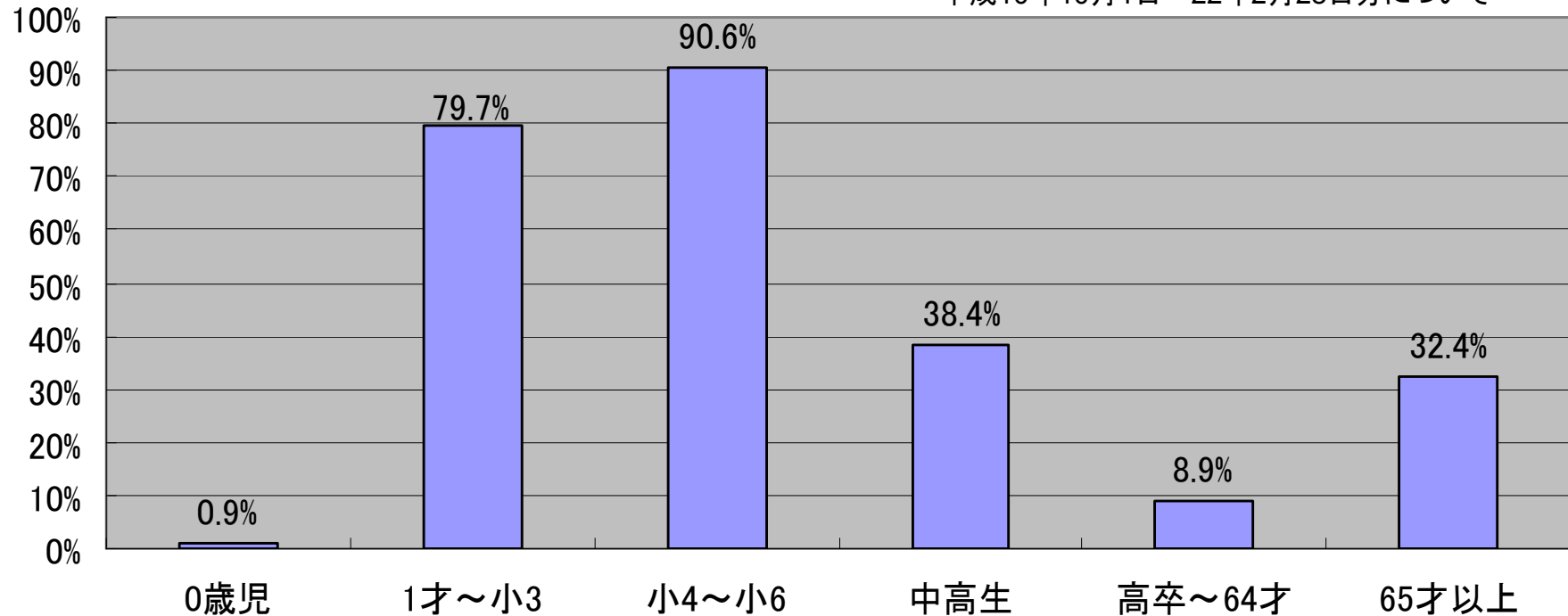
12月以降の、新見市内サンプル調査18件の内15件が新型、3件がA(ー)でした。

なお、入院治療を必要としたとして報告されたのは、備北保健所管内では11月に1名(小学生)のみでした。

Ⅲ. ワクチン接種について

図5 年齢別新型インフルエンザワクチン接種率(新見市分)

平成10年10月1日～22年2月28日分について

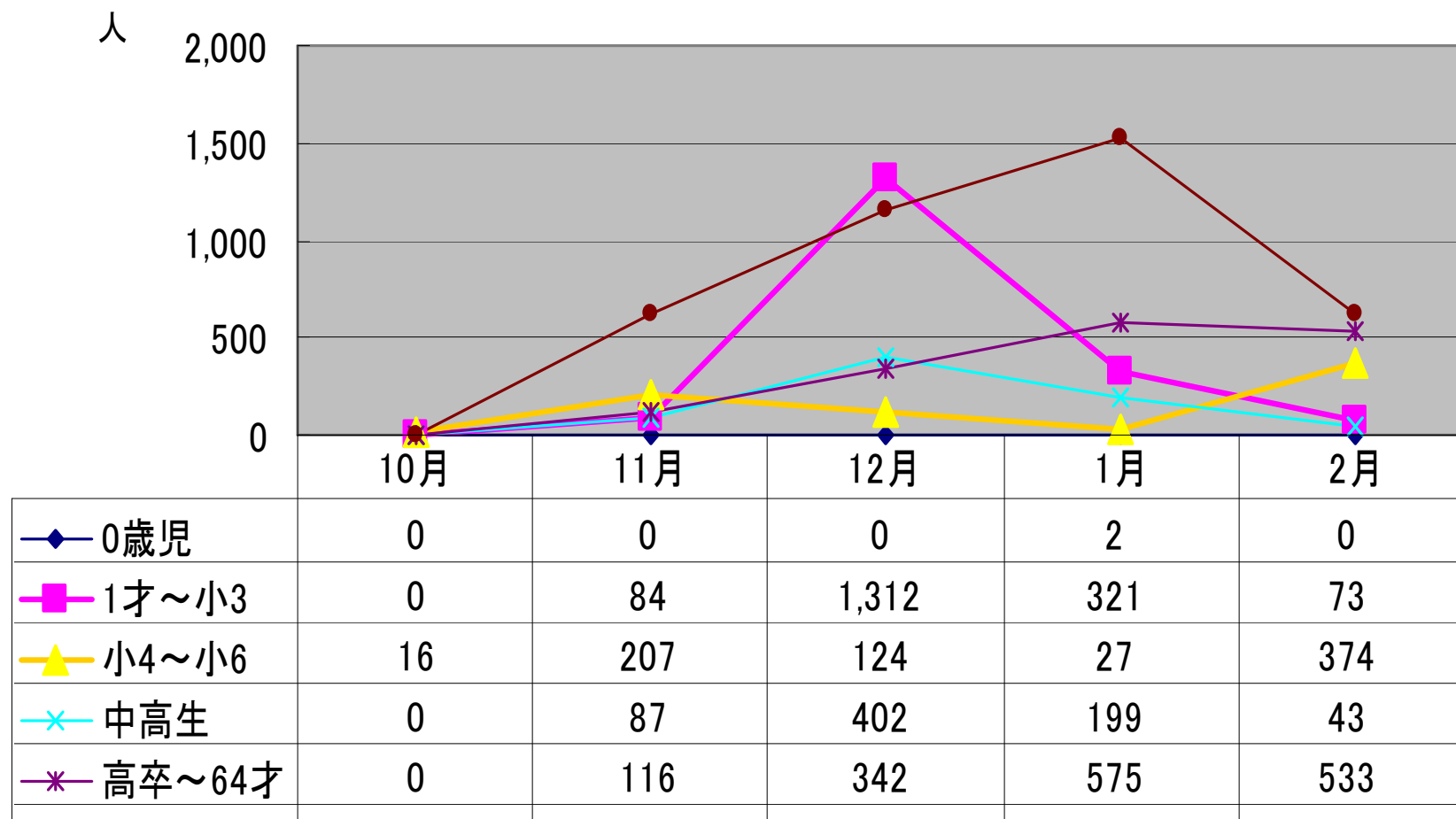


新型ワクチンは、10月から医療従事者、11月から基礎疾患のある人、12月には幼児と小学生を中心に接種が行われた。新見の接種率は高く、このことが小学校での感染増幅を抑え、当地域の発生ピークを低くした一因と考えられる。

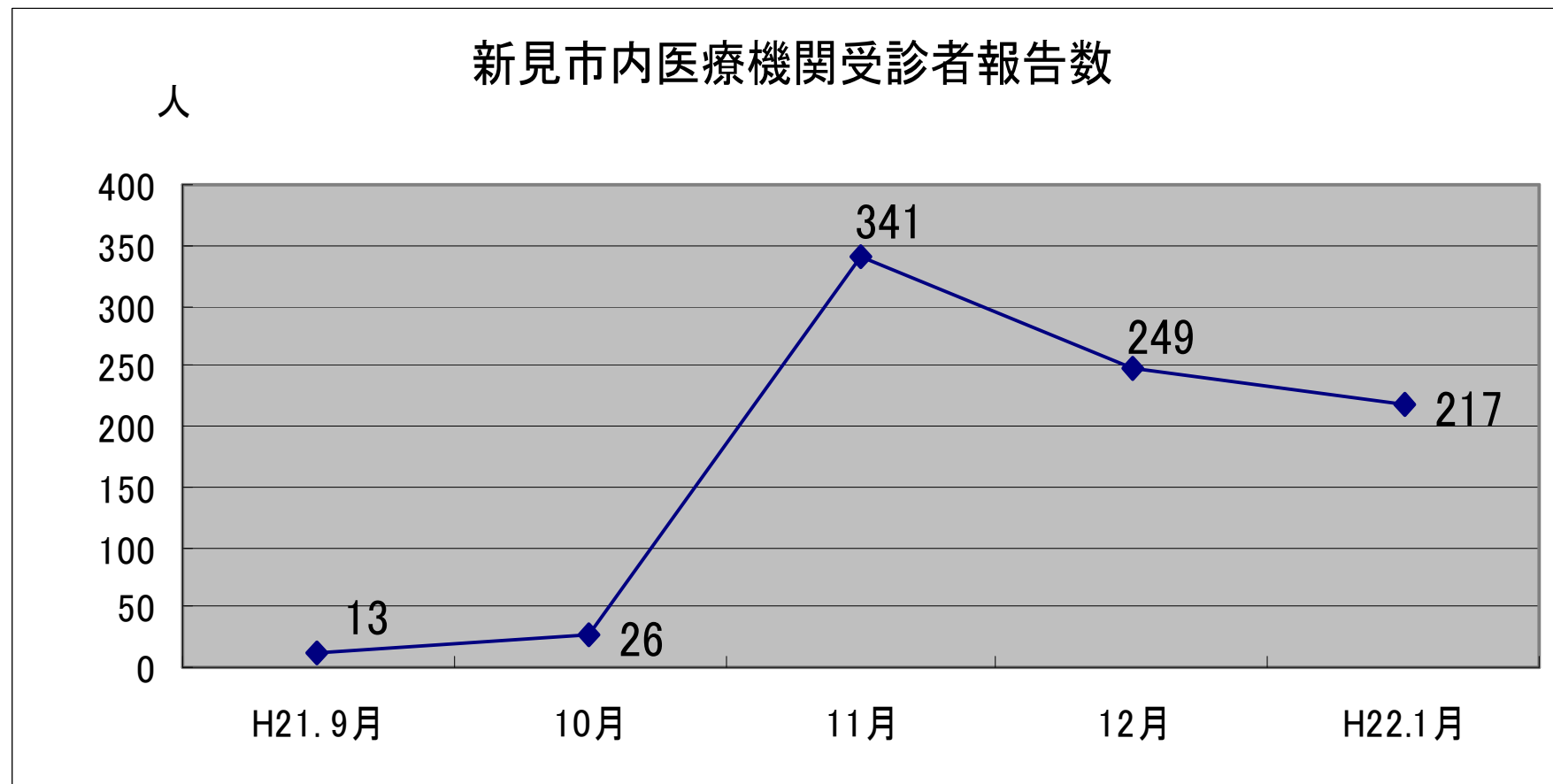
(総数では8,683人、新見市34,808人の25%が接種を受けている)

Ⅲ-2. ワクチン接種について

図6 平成21年 新型インフルエンザワクチン接種人数
(新見市分)



IV. 新見医師会のインフルエンザ患者報告について



平成21年9月～22年1月の新見医師会への
インフルエンザ患者報告累計は846人で
新見市民の2.4%でした

V. まとめ

～新見地域のインフルエンザ流行状況(7/21～2/28)

- (1) 42週(11/11～)に1をこえ流行期に入った。
サンプル調査で行ったPCR検査18例中15例が
新型インフルエンザであった。
- (2) 一般に言われる「小学校での感染増幅」は新見
では少なかった。○適切な学級閉鎖措置がなされた
○流行開始が遅れたことにより予防接種が間に合った
○小学生の予防接種率が高かった
- (3) 9月～1月で人口の2.4%の人の感染報告がなされ、
10月～2月で人口の25%がワクチン接種を受けた。
特に小学生の接種率は高く、1～3年生80%、4～6年生
91%であった。
- (4) 5週(H22.2.1～)以降終息傾向であるが、9週(3/1～)
には定点報告が1.67であり、いまだ1をこえている。

V-2 参考. 高梁医師会のインフルエンザ患者報告事業について (図5、図6)

○平成21年8月21日から独自に開始

○参加医療機関数

7病院・38診療所(高梁医師会全医療機関)

うち高梁市5病院・36診療所

吉備中央町賀陽地域2病院・2診療所

○実施内容

流行拡大防止と適切な治療を目的に高梁地域における流行状況を把握するため、各医療機関を受診したインフルエンザ患者について、年齢等を医師会事務局に報告・集積する

○報告数(現在も継続中)

4ヶ月間(8月21日～12月28日)のまとめについて

A型インフルエンザ1517人(12月以降は疑いを含む)

うち0～2才51人、3～6才156人、小学生438人

中学生236人、高校生199人、～59才423人、60才以上14人

B型インフルエンザ8人

うち3～6才2人、小学生5人、高校生1人

高梁地域における年齢別受診人数の推移

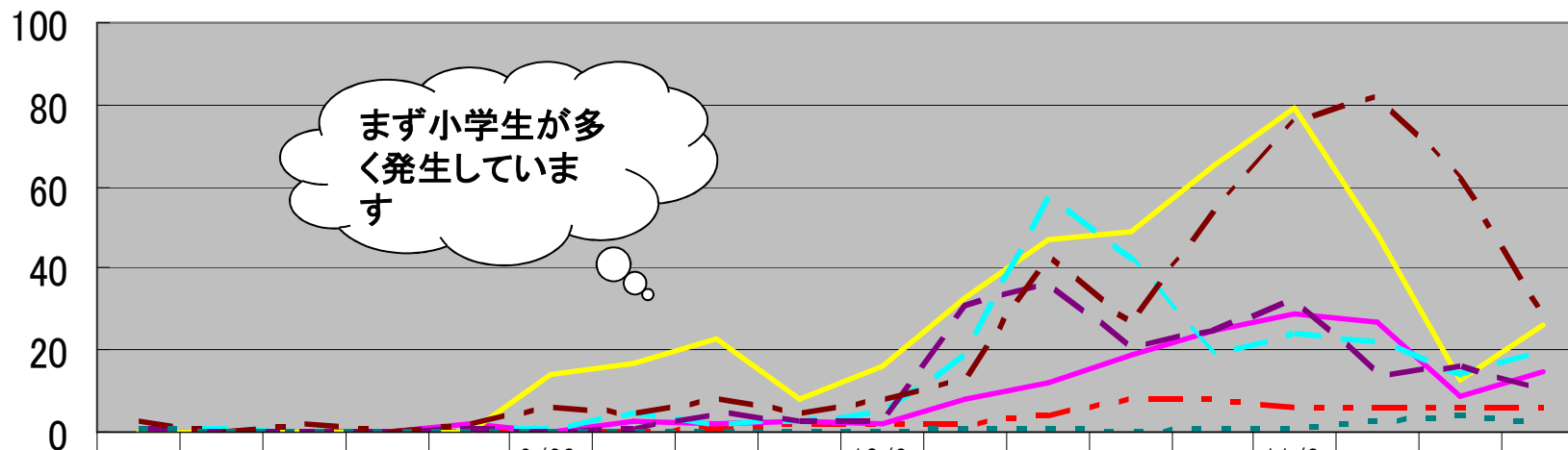
参考

～高梁医師会による 受診患者報告事業から～

図7 年齢別受診状況

平成21年8月24日～12月27日受診患者
報告数1517人について

人

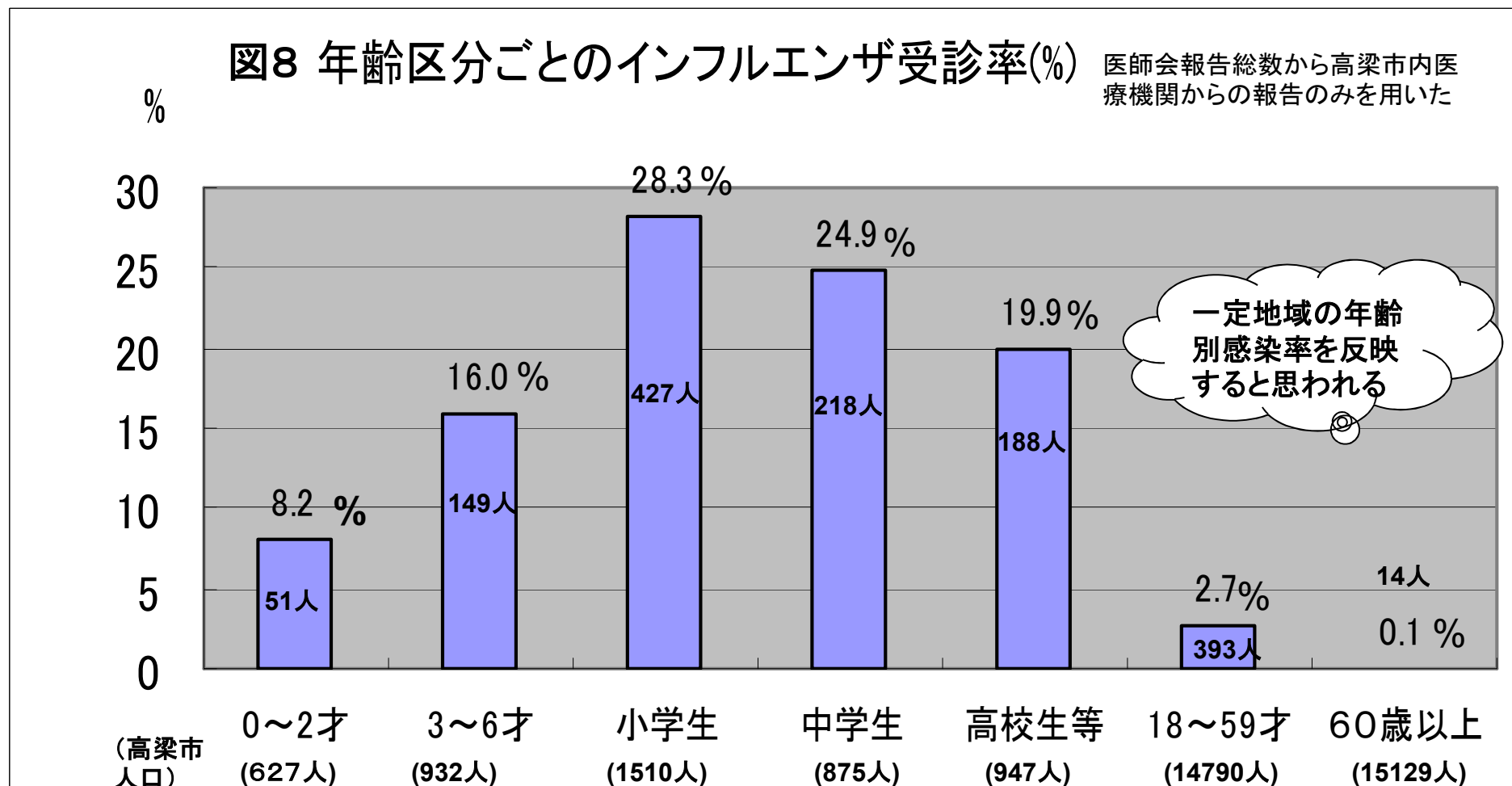


	8/24 ～30	8/31 ～9/6	9/7～ 13	9/14 ～20	9/21 ～27	9/28 ～ 10/4	10/5 ～11	10/1 1～18	10/1 9～25	10/2 6～ 11/1	11/2 ～8	11/9 ～15	11/1 6～22	11/2 3～29	11/3 0～ 12/6	12/7 ～13	12/1 4～20	12/2 1～27
0～2才	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	2	4	8	8	6	6	6	6
3～6才	0	0	0	0	2	0	3	2	3	2	8	12	19	25	29	27	9	15
小学生	0	0	0	0	0	14	17	23	8	16	33	47	49	65	79	48	13	26
中学生	1	1	0	0	1	1	5	2	3	5	19	57	42	19	24	22	14	20
高校生等	1	0	0	0	1	0	1	5	3	3	31	36	21	25	32	14	16	10
18～59才	3	0	2	0	2	6	5	8	5	8	13	43	26	54	76	82	62	28
60歳以上	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	3	4	2

高梁市における年齢別受診率(H21年8月21日~12月27日)

市内住民のインフルエンザAによる外来受診者は
1440人であり、これは全市民の4.4%にあたる

高梁市人口34805人(H21.12.31現在)



まとめ

～高梁地域のインフルエンザ流行状況(7/21～12/27)～

- (1) 35週(8/24～8/30)に定点報告数が1を超え、流行期に入った。12月16日と24日に採取した計13例のPCRによるサンプル調査では、11例が新型インフルエンザで、判定保留とA(ー)がそれぞれ1名であった。全国と同様に、今季は11月以降も季節性インフルエンザの流行は確認されていない。経過中、高梁の入院患者は小学生が1名(発熱・呼吸困難)報告されている。
- (2) まず、小学生の間で流行が先行し、その後各年齢層に流行がみられた。流行は14週間ほどでピークを迎え、11月30日からは終息を始めた。経過中ワクチンは11月4日から12月末までに数回にわたって計5425回接種分(成人換算)が確保されたが、効果出現前に高梁での流行は終息に向かったと思われる。
- (3) 年齢区分による感染状況は特徴的で、60才以上0.1%、成人2.7%に対して、小学生28%・中学生25%、高校生20%と高率に発症していた。0～2才8%(自宅児8.3%,保育園児7.8%)、3～6才16%(幼稚園児4.5%,保育園児35.9%)であった。